

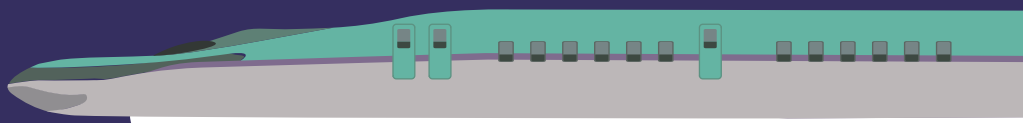
2015年度末北海道新幹線開業 予定

行くよ。

東北

東北の地方銀行
10行が各県の
魅力を発信

※写真の提供元については本文参照



発行にあたって

株式会社北海道銀行

頭取 堰八 義博



2016年3月の北海道新幹線（新青森－新函館北斗間）開業まで、いよいよ1年余りとなりました。古くから東北地区と北海道のつながりが深い中であって、開業後は両地区を結ぶ所要時間が大幅に短縮されることから、観光・経済・文化など様々な分野で交流の飛躍的拡大が期待されています。

新幹線開業を迎えるにあたり、一昨年3月当行では、東北・北海道地区相互における地域間交流の促進を目的に、東北地区に本店を置く地方銀行10行と業務提携（「東北・北海道地区交流促進地銀連携」）を行い、取引先企業のビジネス支援を始めとして、各提携地銀との連携強化を図っているところです。

こうした中、連携事業の一環としてこの度、東北6県の観光スポット・食・文化・歴史など、各県イチオシの魅力・情報について、提携地銀10行から寄稿いただいたものを取りまとめ、当行の経済情報冊子「調査ニュース」の別冊号として発行する運びとなりました。本冊子が東北6県の情報発信媒体としての役割を担い、道民を中心とした多くの方々に東北地区の魅力を再認識していただくとともに、東北各県と北海道との観光・経済・文化の交流が一層深まることを期待しております。

最後に、本冊子発行の趣旨をご理解いただき、快く寄稿していただいた各提携地銀および関連シンクタンクの皆様に厚くお礼申し上げます。

2015年2月

目次

東北・北海道地区の連携が生み出す可能性 【北海道銀行】	1
津軽海峡交流圏の歴史と、今後の青函交流の在り方 【青森銀行】	5
津軽海峡経済圏と世界遺産白神山地 【みちのく銀行】	8
イーハトーブいわて物語～そういう旅に私はしたい。 【岩手銀行】	11
岩手県の農林水産業と6次産業化について 【東北銀行】	14
2015年の宮城県、仙台市の動き 【七十七銀行】	17
秋田県における観光の現状と振興に向けた取り組み 【秋田経済研究所(秋田銀行)】	21
大仙市「花火産業構想」に基づく地域活性化への新たな挑戦 【フィデア総合研究所(北都銀行)】	24
山形湯めぐり案内 【山形銀行】	27
山形県庄内地域の魅力とは？ 【荘内銀行】	30
地域ごとに異なる特徴で魅せる福島県 【とうほう地域総合研究所(東邦銀行)】	33

東北・北海道地区の連携が生み出す可能性

北海道新幹線の開業を契機に、「東北・北海道地区の連携が生み出す可能性」が着目されています。そこで本稿では、北海道新幹線開通によって期待されている効果を整理した上で、両地区の連携に向けて着目すべき観点をまとめました。

※本稿は、「東北・北海道地区交流促進地銀連携事業」の一環として、**北海道銀行**が執筆いたしました。

1. 北海道新幹線の開業によって期待される効果

2016年3月、北海道新幹線（新青森－新函館北斗間）が開業します。05年5月に着工した同区間における総事業費は5,548億円に達する見込みで、多額の費用をかけて整備されたインフラを上手く経済活動へ活かすための取組みが、受益者である道民に求められています。

新幹線開業によって、「時間短縮」「輸送力拡大」が見込まれることから、「観光入込客の増加」「本州地域とのビジネス交流の拡大」などによる経済波及効果が期待されています。従来と比べて、函館から新青森までの移動時間が約1時間短縮し、新函館北斗から主要駅までの所要時間は、新青森までが1時間1分、八戸までが1時間25分、盛岡までが1時間53分、仙台までが2時間37分、東京までが4時間9分と、北海道から東京までが一本の線で結ばれることになります。

日本政策投資銀行北海道支店が昨年10月に発表した「北海道新幹線開業による北海道内への経済波及効果」では、年間約136億円の経済波及効果が見込まれるとしています（新青森－新函館北斗間開業後の試算結果）。観光・ビジネス目的における交流人口が増加することで、宿泊費・飲食費・土産代・交通費などの様々な費目において道内消費が押し上げられるためです。但し、道民が何もアクションを起こさずに、道外からの観光・ビジネス客増加は期待できません。こうした経済波及効果の持続・拡大に向けた戦略・戦術づくりを、オール北海道で実行していく必要があります。

本年1月、北海道新幹線札幌延伸工事における工期が5年前倒しとなることが決定しました。これによって、2030年度中に新函館北斗－札幌間が開業する予定です。既に、東北・北海道地区は陸・海・空において交通網が整備されています。

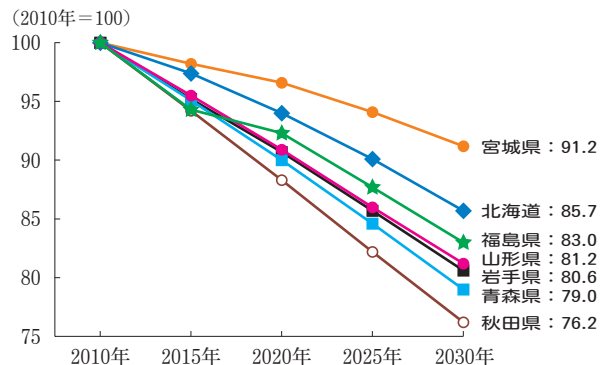
例えば、新千歳空港発着便を利用すれば、容易に東北各県との往来が可能です。こうした現状の交通アクセスを踏まえつつ、今から札幌延伸を睨んだ、新幹線の有効活用策の検討・推進も視野に入れる必要があるでしょう。

2. 「連携」に向けた糸口とは

とりわけ、地理的に近く、古くから往来がある東北各県・北海道間においては、新幹線開業を契機とした連携促進効果が期待されます。

既に東北・北海道地区は、人口減少、少子・高齢化という共通課題に直面しており、「まち・ひと・しごとづくり」への早期着手が必要となっています（図表1）。2011年3月の東日本大震災による影響が大きい東北地区では、復興に向

図表1 北海道・東北各県の将来人口推計
【北海道・東北6県の人口見通し】



【北海道・東北6県の年齢構成見通し】
(構成比、%)

年齢区分	該当年	北海道・東北6県						
		北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県
年少 (0-14歳) 人口比率	2010年	11.9	12.5	12.7	13.1	11.4	12.8	13.6
	2020年	10.3	10.2	10.9	11.7	9.7	11.2	11.6
	2030年	8.8	8.9	9.7	10.3	8.5	10.1	10.2
生産年齢 (15-64歳) 人口比率	2010年	63.4	61.7	60.1	64.5	59.0	59.6	61.3
	2020年	57.0	56.3	55.5	59.5	53.2	55.1	56.1
	2030年	54.9	53.5	53.4	57.6	50.5	53.0	53.7
老年 (65歳以上) 人口比率	2010年	24.7	25.8	27.2	22.3	29.6	27.6	25.0
	2020年	32.8	33.5	33.6	28.8	37.2	33.8	32.3
	2030年	36.3	37.6	36.8	32.2	41.0	36.9	36.1

(出所) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

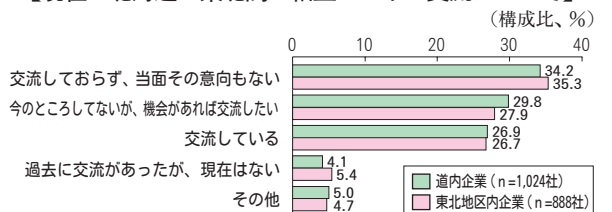
けて新たな「まち・ひと・しごとづくり」が進んでいる地域が存在しており、地域資源に着目した地域づくり事例が多く見受けられます。道民は、こうした取組事例から多くを学ぶだけでなく、地域間の連携による地域おこしの可能性も見出すことができるかもしれません。

ビジネスという観点で見れば、東北・北海道地区外（含む海外）の需要取り込みに向けて、両地区に属する企業間のビジネス交流といった可能性が指摘できます。

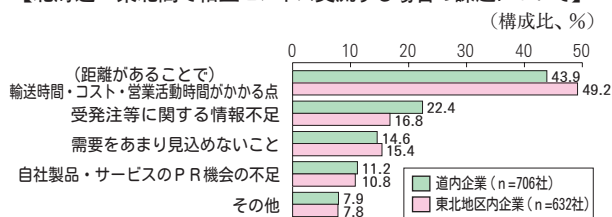
北海道商工会議所連合会の資料によれば、東北・北海道の相互ビジネス交流について、道内企業の29.8%、東北地区内企業の27.9%が、「今のところしてないが、機会があれば交流したい」と回答しており、ビジネス交流拡大に対する相応のニーズが確認されます（図表2）。また、相互ビジネス交流の課題としては、「距離があることで、輸送時間・コスト・営業活動時間がかかる」という項目が双方の地域内企業における最大のネックとして挙げられています。もっとも、ビジネス交流に向けた高いハードルは、新幹線開業が大きく押し下げますので、次なる課題は、東北・北海道地区間に存在する「情報の非対称性の解消」と言えるでしょう。

2013年3月に東北の地方銀行10行と北海道銀行の間で締結しました「東北・北海道地区交流促進地銀連携」における事業の一環として、東北各行と北海道銀行は両地区のビジネス交流を支援する「ビジネスマッチング支援」を実施し

図表2 東北・北海道地区内企業の相互ビジネス交流【現在の北海道・東北間の相互ビジネス交流について】



【北海道・東北間で相互ビジネス交流する場合の課題について】



（出所）北海道商工会議所連合会「北海道・東北間の経済交流に関するアンケート調査結果（平成24年10月）」

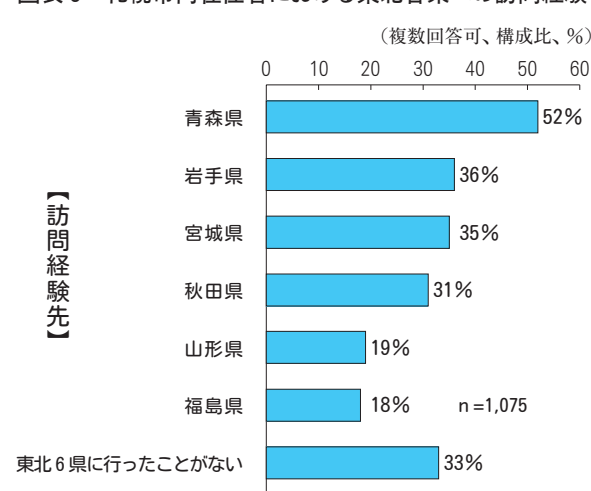
ています。これは、本道のお客様と東北各行のお客様の間にある「販売・仕入先」「技術・ノウハウの提供先」「生産・販売の受委託先」等のニーズに対する情報の橋渡しを目的としています。こうした枠組みの活用も、道内企業の皆様が東北地区内企業との具体的な連携につなげるための情報収集手段になり得ると考えられます。

3. 百聞は一見に如かず

札幌市内在住者のうち約3割が、東北地区に一度も訪問した経験が無いというアンケート結果があります（図表3）。また、同アンケートで訪問経験があると回答した市内在住者の訪問先をみると、半数以上の回答者が、青森県以外の5県への訪問経験が無いという結果でした。祖先を辿れば、東北地区からの入植者も多いはずですが、現実として札幌市内在住者にとってみれば、「東北各県は、距離的に意外と近いにも関わらず、よく知らない地域」であるのかもしれない。

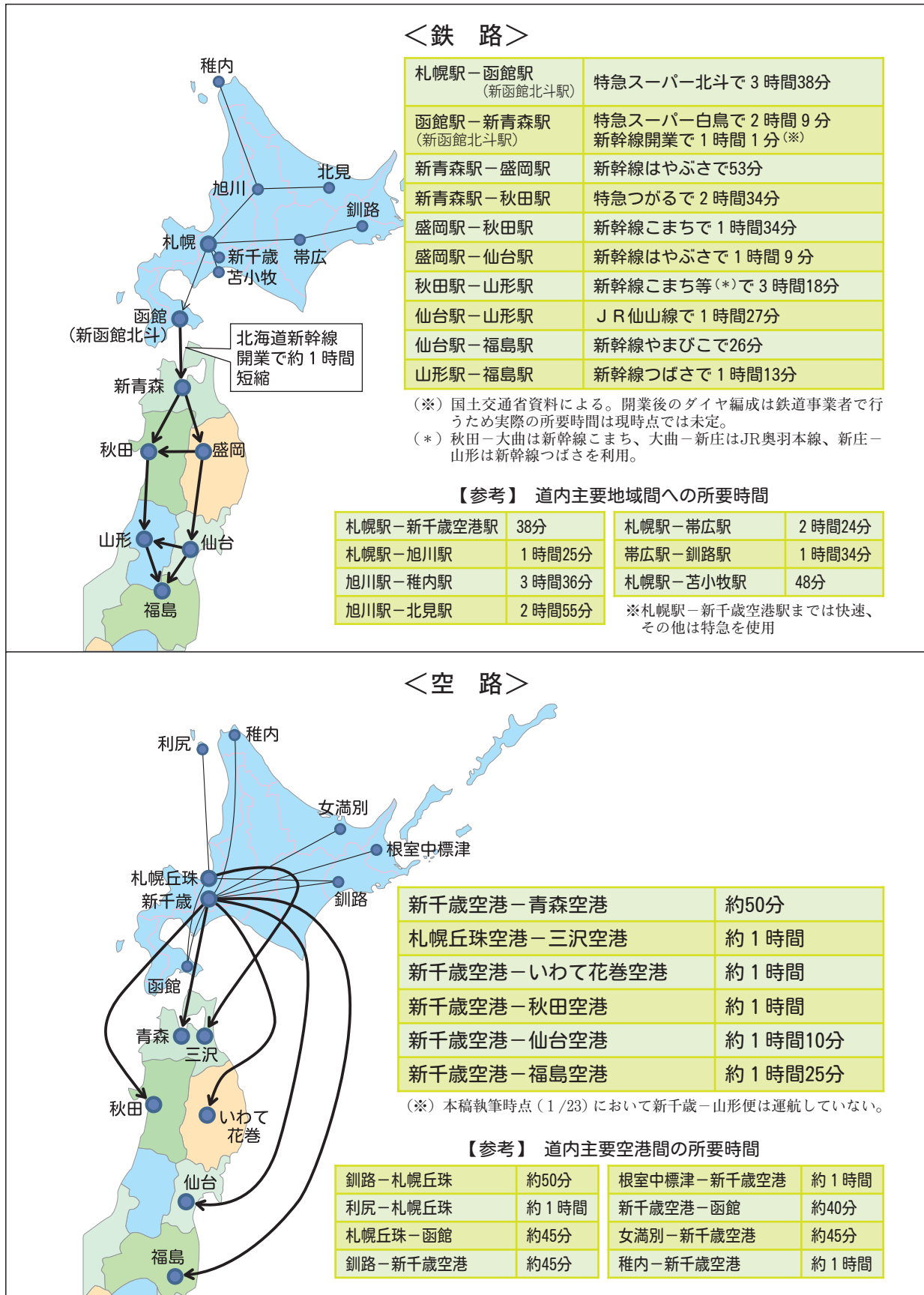
“百聞は一見に如かず”ということわざがあるように、各県の地域性、歴史、文化、経済などに関する様々な情報は、実際に皆さんの五感で感じた方が理解でき、「新たな発見」「気づき」につながると考えられます。本冊子に掲載している東北各県の魅力を皆さんにご理解いただくことが、東北各県への訪問のきっかけとなり、東北・北海道地区間における交流人口増加につながることを期待しています。

図表3 札幌市内在住者における東北各県への訪問経験



（出所）国土交通省東北運輸局「北海道と東北地方の広域連携による旅行需要創出にかかる調査事業（平成26年3月）」

【参考1】 北海道・東北6県の交通アクセス



(出所) 北海道旅客鉄道、東日本旅客鉄道、新千歳空港、丘珠空港

【参考2】 北海道・東北6県の主要経済・社会指標

項目別		都道府県別	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	【調査時点】
国土	総面積(km ²)		83,457.5	9,644.7	15,278.9	6,862.2	11,636.3	6,652.1	13,782.8	2013年 10月1日
人口・世帯数	総人口(万人)		550.6	137.3	133.0	234.8	108.6	116.9	202.9	2010年 10月1日
	構成比	年少人口・0-14歳(%)	12.0	12.6	12.7	13.2	11.4	12.8	13.7	
		生産年齢人口・15-64歳(%)	63.3	61.7	60.1	64.4	59.0	59.6	61.3	
		老年人口・65歳以上(%)	24.7	25.8	27.2	22.3	29.6	27.6	25.0	
	一般世帯数(万世帯)	241.8	51.1	48.3	90.0	38.9	38.8	71.9		
	一世帯当たり人員数(人)	2.21	2.61	2.69	2.56	2.71	2.94	2.76		
労働	就業者数(千人)		2,509	640	631	1,059	503	566	934	2011年度
	構成比	一次産業(%)	7.2	12.7	12.0	5.0	9.9	9.8	7.6	
		二次産業(%)	17.1	20.0	24.3	22.1	24.7	29.0	29.2	
		三次産業(%)	70.2	64.6	62.3	70.5	63.9	59.5	60.0	
経済	県内総生産(兆円)		18.3	4.4	4.2	7.6	3.5	3.7	6.4	2011年度
	構成比	一次産業(%)	3.7	3.8	3.4	1.3	3.3	3.6	1.8	
		二次産業(%)	15.7	22.3	21.9	19.7	18.2	24.5	28.9	
		三次産業(%)	80.6	73.9	74.7	79.1	78.5	71.9	69.4	
		一人当たり県民所得(千円)	2,474.9	2,333.0	2,358.8	2,460.8	2,318.9	2,402.6	2,323.9	2013年度
		公共工事請負金額(億円)	7,764.4	2,156.7	3,479.2	8,658.8	1,175.1	1,618.5	5,398.2	
		新設住宅着工戸数(戸)	34,967	6,454	9,870	25,746	4,366	5,879	15,954	
	民営事業所数(事業所)	242,432	61,549	59,537	98,190	52,285	59,304	89,518	2012年 2月1日	

(注1) 就業者数の産業別構成比は、他に分類不能が存在するため、合計が100%とならない。

(注2) 県内総生産の産業別構成比は、他に、輸入品に課される税・関税から総資本形成に係る消費税を差し引いた金額が存在するため、合計が100%とならない。

(出所) 国土交通省国土地理院「平成25年全国都道府県市区町村別面積調」、総務省「国勢調査」、内閣府「県民経済計算」、国土交通省「建築着工統計調査報告」、東日本建設業保証㈱「公共工事前払金保証統計」、総務省「平成24年経済センサス-活動調査」

【参考3】 北海道・東北6県間における旅客数(上段)、貨物量(下段)

(千人)

2012年度		【到着地】										【出発地→到着地】 小計
		北海道	東北地域						(参考)		左記以外の府県	
		青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	東京都	大阪府			
【出発地】 東北地域	北海道	—	468.5	121.7	435.9	69.6	4.8	67.2	6,137.0	1,118.6	2,139.6	10,562.9
	青森県	507.5	—	520.9	646.3	476.5	14.2	119.5	1,331.5	67.2	1,248.5	4,424.7
	岩手県	89.1	543.0	—	1,790.5	280.5	14.7	77.7	1,530.3	80.3	1,020.7	5,337.7
	宮城県	436.4	542.8	1,908.8	—	565.0	1,668.0	3,452.6	4,253.0	542.1	3,111.9	16,044.2
	秋田県	66.1	180.9	348.2	721.6	—	—	178.3	971.3	73.7	396.9	2,942.6
	山形県	4.6	13.9	14.5	1,685.4	72.9	—	634.6	1,234.1	58.7	712.1	4,426.2
	福島県	65.8	119.2	78.3	2,717.1	245.9	495.9	—	3,327.5	109.7	2,656.9	9,750.5

(万トン)

2012年度		【到着地】										【出発地→到着地】 小計
		北海道	東北地域						(参考)		左記以外の府県	
		青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	東京都	大阪府			
【出発地】 東北地域	北海道	—	214.5	35.2	205.4	96.8	33.1	37.3	317.0	83.4	1,652.7	2,675.6
	青森県	332.1	—	363.0	45.5	121.3	20.7	39.1	100.5	27.1	726.9	1,444.1
	岩手県	23.0	479.5	—	177.7	146.5	43.3	23.6	94.1	8.6	292.5	1,265.8
	宮城県	104.0	129.6	338.0	—	123.5	113.5	226.0	83.7	23.8	1,044.4	2,082.6
	秋田県	27.2	46.3	100.0	77.4	—	36.5	15.3	27.6	9.9	245.9	559.1
	山形県	10.4	31.2	65.4	206.8	67.5	—	86.4	42.0	27.3	318.8	845.3
	福島県	15.1	78.3	16.2	75.6	26.1	48.8	—	196.8	14.7	744.4	1,201.0

(注) 上記は、ウエートが大きい同一県内の旅客数・輸送量を除き、県外(道外)地域への旅客数・輸送量のみを示している。

(出所) 国土交通省「貨物・旅客地域流動調査」

津軽海峡交流圏の歴史と、今後の青函交流の在り方

本稿では、北海道道南地区と青森県を結ぶ津軽海峡に焦点を当て、津軽海峡を通じた青函交流の歴史、青函トンネル開通によってもたらされた効果、そして北海道新幹線開業における期待効果や今後の津軽海峡交流圏の在り方について述べさせていただきます。

※本稿は、「東北・北海道地区交流促進地銀連携事業」の一環として、青森銀行から寄稿いただきました。

はじめに

2015年度末、いよいよ北海道新幹線・新青森－新函館北斗間が開業し、青森県には津軽半島の今別町に奥津軽いまべつ駅が設置されます。青森県は、2002年に東北新幹線の八戸駅開業、そして2010年には、七戸十和田駅と新青森駅の開業とこれまで2度、新幹線を迎えてきました。この記念すべき東北新幹線全線開通を契機とし、観光需要喚起や経済活性化を図るべく、青森県では官民挙げて各施策や行事に取り組んできました。

今回の北海道新幹線開業については、青森県と北海道道南地域が、開業効果を最大限に活用していく態勢を相互に構築していかななくてはなりません。「3度目」の新幹線開業を迎えるにあたり、期待効果や今後の津軽海峡交流圏の在り方について述べさせていただきます。

1. 津軽海峡交流史

最初に確認しておきたいのは、青森県と北海道道南地域の間で、古来より経済、文化、社会の各分野で、多様な交流が行われ、これまでの両地域の発展に大きな影響を及ぼしてきたという事実です。

古代・中世における津軽海峡は、交流を妨げる存在ではありませんでした。津軽地方と蝦夷地は、船による往来で「きつもん擦文文化圏」を形成し、あるいは「蝦夷交易」を活発化するなど、「一体的存在」でした。

近世の幕藩体制下でも、津軽海峡エリアの各地は関西や北陸からの西回り航路（北前船）の寄港地として栄えました。松前藩では津軽海峡をはさんで極東・蝦夷地・本州を結ぶ国際交易も行い、津軽海峡は国内通商のみならず、国際交流の場でもありました。

その後、日米和親条約により箱館（函館）が開港され、津軽海峡は近代的世界システムとグローバル化に巻き込まれていきます。明治維新以降は、鉄道網と津軽海峡航路の発展で、物資と人員の輸送力が飛躍的に向上し、交通の拠点として発展した青森市と函館市は、一方で北洋漁業と水産加工が連動した水産基地としても栄えました。

こうした中、函館市の海産物商人で、函館市議会議員でもあった阿部覚次の『大函館論』（1923年）に代表されるような、津軽海峡エリアを一体的な「地域」として捉えようとする議論が登場しました。これは中央と地方との格差是正のために「一体的存在」としての有機的結合を強めていこうという主張において、まさに今日的な議論であります。

しかし、そうした議論が大正時代になされていたということは、裏を返せば、およそ90年の時の流れを経てもなお、中央と地方の格差という課題を解決する津軽海峡エリアの有機的結合が、いまだ必要とされる水準に達していないということをも意味しております。

2. 青函トンネルの完成とその後の青函交流

1954年9月、台風15号により、青函連絡船洞爺丸が転覆し、1,100人を超える死者・行方不明者を出しました。日本の海難史上最大の惨事とされる、この洞爺丸事故を契機として、戦前から検討されていた青函トンネル構想が本格的に動き出しました。

幾多の困難を乗り越え、1983年1月、津軽海峡中央部の水深140mの海底から、さらに100m深い地点で本州と北海道がつながりました。青函トンネル先進導坑の貫通です。構想から半世紀、調査ボーリングから40年、北海道の吉岡で調査坑掘削が始まってから19年という、とてつもないプロジェクトでした。海底の岩肌から噴出する大量の海水と戦い、高度な技術と不屈の意志で完成させたトンネルです。

本坑が貫通したのは2年後の1985年。そして1988年、ついに津軽海峡線が開業し、本州と北海道が約2時間でつながることとなりました。

本州と北海道が陸続きになり、青函の時代が来たと誰もが期待しました。「青函トンネル開通記念博覧会」（通称：青函博）が、青森市と函館市の2会場で晴れやかに開催され、その後も、産学官の連携による「青函インターブロック構想推進協議会」や、青森市と函館市の「青函ツインシティ提携」などに基づく多様な交流促進事業が実施されました。それでも「青函交流圏」の形成には至りませんでした。

青函トンネルが世界から賞賛された大工事であったことは事実ですが、在来線では青函の時間距離はなおも遠く、特にビジネス面の交流メリットを追求することは困難だったのです。

3. 北海道新幹線開業によってもたらされる効果

現在、新青森－函館間は津軽海峡線で約2時間ですが、新幹線開業時には新青森－新函館北斗間が約1時間、開業2年後には最速約40分ま

で短縮されます。青函の時間距離が短縮されることを受け、津軽海峡をまたいでビジネスチャンスを探る、明らかにかつてとは違う民間企業の動きがみられるようになってきました。道南産の復刻米で弘前市の酒造メーカーが特別純米酒「ガスバリ2013」を製造した事例をはじめ、青函の企業が連携して新商品開発を進めたり、取引エリアを拡大するなどの成果が出てきており、いまだ面的な広がりにはなっていないものの、青森県全域と道南地域のあちらこちらで協働の話題がみられるようになっています。

また、津軽海峡をはさむ青森県40市町村、北海道渡島総合振興局管内の11市町、檜山振興局管内の7町、計58市町村の人口を足し合わせると、人口規模は約180万人と政令指定都市・札幌市の約190万人に匹敵する水準であります。もちろん札幌市の賑わいは、1,700人/km²の人口密度に象徴される大都市の集積効果であり、北海道庁所在地、日本や世界の中での存在といったトータルの力であります。「広い地域に住んでいる人を、海峡を越えて足し合わせたら、札幌市と人口規模が似かよっていました」というだけでは、賑やかさも経済効果も生まれません。

しかし、楽しい人口規模であることも確かであり、歴史的にもつながりの深い青森県と道



青函トンネル
(写真提供：青森県観光情報サイト アプティネット)

南地域が、新幹線で一段と近づくことによって、これまで成し得なかった有機的結合を実現し、広域交流圏（＝「津軽海峡交流圏」）を確立できるかもしれないという期待感が大いにあります。

4. これからの課題

本県をはじめとする地方では、人口減少という厳しい環境の中、地域経済活性化や生活の質を維持・向上させる取り組みが求められており、北海道新幹線がそれらを実現するために有益である事は間違いありません。しかしながら、開業のみで何もせずに交流圏が確立されるわけではありません。新幹線駅からの距離、観光資源、特産品、ビジネス需要……など、青森県・道南地域58市町村すべて条件は異なりますが、関係者が自発的に新幹線の活用を図る動きを加速し、地域や自身の強みを伸ばしつつ、有機的な結合をめざしていくことが今回の開業準備には是非とも必要です。

さらに、地理的な広がりを見ると、その交流圏は、人口集中による効率性の高い交流圏にはなりにくく、むしろ、何でも屋の発想で地域の課題に取り組み、それぞれに個性的な強さを磨いて、つながり合っていくことが必要と考えます。

おわりに

青森県と道南地域の両地域の交流が量的にも質的にもこれまでとは異なるものとならなければ、遠方の方々から、「行ってみたい広域観光圏」や「魅力的な経済圏」として認知してもらうことはできないと考えます。まさに、「交流」から「連携」、そして「結合」へと深化することが「津軽海峡交流圏」活性化につながると考えます。

乗り越えていかなければならない課題は少な

くありませんが、北海道新幹線開業は津軽海峡エリアが真の結合に向かうための大きなチャンスです。地域金融機関としても、新たなチャレンジに向かう事業者をサポートすべく、万全な体制を構築するとともに、産学官金が有機的に連携し、「津軽海峡交流圏」の確立・活性化に向け、大いに盛り上げていきたいと考えます。

(参考資料)

- ・一般財団法人青森地域社会研究所 調査研究部長 竹内紀人
「新時代における津軽海峡交流圏の確立をめざして」
(一般財団法人日本経済研究所「日経研月報2014年5月号」)



東北新幹線七戸十和田駅
(写真提供：青森県観光情報サイト アプティネット)



東北新幹線新青森駅
(写真提供：青森県観光情報サイト アプティネット)

津軽海峡経済圏と世界遺産白神山地

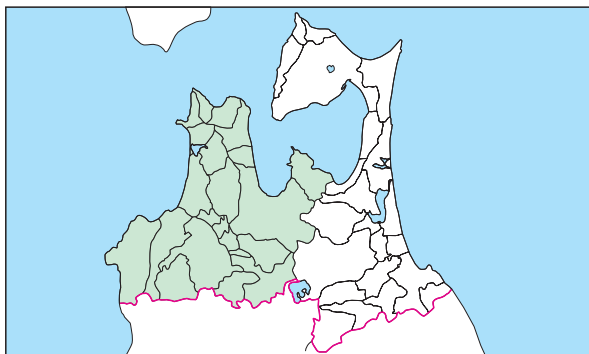
本稿では春から初夏にかけて、北海道民の皆さまに体感いただきたい津軽地方の名所と食の魅力についてご紹介いたします。

※本稿は、「東北・北海道地区交流促進地銀連携事業」の一環として、みちのく銀行から寄稿いただきました。

1. 青森県津軽地方の概要

青森県は大きく津軽地方（日本海側）と南部地方（太平洋側）に分けられます。江戸時代に統治していた領主がそれぞれ津軽氏、南部氏であったことが、そのまま地名の由来となっています（図表1参照、緑色部分が津軽地方）。

図表1 青森県津軽地方



（出所）みちのく銀行作成

2. 「函館市」と親交の深い「弘前市」

洋館のある街、コーヒーの街、スイーツの街など共通する観光資源が多い函館市と弘前市。「歴史」という共通点もありながら、弘前市には藩政時代、函館市には幕末開港時代と違う文化が根付いています。

函館市と弘前市では、お互いの弱点を補い観光客を誘致しようとする広域観光連携を目指す動きがあります。函館市と弘前市の共通点や違いを見つける旅に出かけてみてはいかがでしょうか。

新青森駅から奥羽本線に乗り換え30分ほどで弘前駅に到着します。弘前市といえば「弘前城のさくら」が全国的にも有名です。「弘前さくらまつり」は毎年4月下旬から5月上旬まで開催され、全国から200万人以上が来場します。日本最古のソメイヨシノやシダレザクラ等50種2,500本以上の桜が、幾重にも連なる桜並木を生み出しております。

桜が葉桜へと変わる5月上旬～中旬にかけて、弘前市内では「弘前りんご花まつり」が始まり



弘前城の夜桜

ます。こちらの主役は弘前市の基幹産業である「りんご」の花となります。山間に広がる白い花は、まるで春に雪が降ったような幻想的な景色を作り出します。

弘前市ではりんごの生産力向上や消費拡大のほか、りんごを活用した魅力ある加工品の創出を目指した地元産シードル（発泡性のりんご酒）の普及にも取り組み注目を浴びております。市が掲げている『シードルの街・弘前』構想が実現すれば、市内農家などが作ったシードルそれぞれの味を生産農家の軒先などで味わうことが可能になります。2014年の春には、本構想の中核事業者となるkimoriが「弘前りんご公園」でシードルの製造を開始しました。ぜひシードルを飲みながら、「桜とりんごの花」をご覧ください。



kimori高橋社長（左）と当行高田頭取（右）

3. 世界遺産白神山地と深浦町

深浦町は秋田県境に位置し、約80kmに及ぶ海岸線から望む日本海の夕日が有名です。世界遺産白神山地や新鮮な魚介類などを活かした観光誘致に努める人口1万人弱の町が今、脚光を浴びています。「感動は、不便の数だけ、ここにある」という深浦町には、青森、弘前から五能線を通して秋田を結ぶ人気の観光列車「リゾートしらかみ」に3時間ほど揺られ訪れることをお勧めしたいです。ここでは深浦町を千畳敷・深浦^{つばきやま}・椿山^{かき}・十二湖の4エリアに分けてご紹介いたします。

まず皆さまを出迎えるのは千畳敷エリアの12kmにわたって続く岩棚の海岸線です。荒々しい北の海を象徴する景勝「千畳敷」が見どころとなっております。岩棚が広々と広がり、数百年、数千年の単位で自然が作り上げた奇岩、怪岩が立ち並びます。

中心街である深浦エリアでは今まさに話題沸騰のご当地グルメ「マグロステーキ丼（通称マグステ丼）」が楽しめます。



マグロステーキ丼

マグロといえば青森県大間町が全国的にも有名ですが、水揚げ量は深浦町が青森県No.1なのです。マグロステーキ丼は深浦町の天然本マグロを3杯の小どんぶり（マグロ刺身丼、マグロ片面焼きステーキ丼、マグロ両面焼きステーキ丼）で楽しむ、天然本マグロ産地ならではのマグロ尽くしどんぶり御膳です。ご当地グルメとして全国から注目を浴びる「マグステ丼」をぜひご賞味ください。

次の椿山エリアでは、深浦マグロ漁師自らが経営する^{かいさん}（あおもり海山の加工処理施設で「マグロの解体ショー（要予約）」をご覧いただきたいです。こちらで解体されたマグロは直売所でお土産として購入いただけます。また水平線に沈んでいく茜色の夕日を一望しながら入浴できる全国屈指の秘湯「^{かねざき}黄金崎不老ふ死温泉」に入浴することをお勧めします。

最後の十二湖エリアは、白神山地の玄関口となる場所です。ブナの林に囲まれた33の湖が点在する人気の観光スポットです。33の湖の中で圧倒的な人気を誇る「^{あおいけ}青池」は差し込む日差しによって湖面の色が変わり幻想的な風景を演出します。



青池の様子

4. 北海道新幹線開業に向けて

2016年3月には、いよいよ北海道新幹線が開業し、新青森～新函館北斗間が約1時間で結ばれ、これまでの半分の時間で往来することが可能になります。観光やビジネス、買い物、医療などの行動範囲が広がることで交流人口が増加し、大きな経済効果が期待できます。

その効果を確認なものにしていくためには、青函双方の住民がお互いの魅力を再認識し、内外に向かって発信することで、全国、海外からのお客様を増やしていくことが必要でしょう。青函新時代の幕開けです。

みちのく銀行職員が紹介する「地元イチ押しスポット」

【推薦者】 営業戦略部 個人推進グループ長 八木橋 由利子 さん

【内 容】 「文化財で味わう珈琲」

弘前市を訪れた際に、是非一度お越しいただきたい場所は、2015年春に弘前市役所敷地内に出店するスターバックスです。スターバックスは終戦まで歴代の師団長が入居した「旧第八師団長官舎」を改修し出店しますが、この官舎は1917（大正6）年に青森県洋風建築の祖である堀江佐吉の長男堀江彦三郎により設計建設され、国の「登録有形文化財」（弘前市指定「趣のある建物」）に登録されております。大正モダンにタイムスリップしたかのような空間で桜の香りを感じながら珈琲が飲めるとはなんと優雅なひと時でしょう。まさしく洋館の街、珈琲の街という函館との共通点を感じ取ることができるのではないのでしょうか。スターバックスが国登録有形文化財に出店

するのは兵庫県神戸市「神戸北野異人館」に続

き2店舗目になります。旧第八

師団長官舎とスターバックスが

建物の歴史と時代を感じさせる

コンセプトは今から楽しみです。

ぜひ、弘前城の満開の桜の花を

楽しんだ後にお立ち寄り下さい。



官舎の内部



旧第八師団長官舎

【推薦者】 深浦支店 法人営業課 浦谷 友子 さん

【内 容】 「深浦町のおいしい見どころ」

私が一番にご案内したいのは、十二湖エリアの「沸壺の池」です。水の透明度が高く、澄んだ青さは本当に綺麗で神秘的。あまり山に興味がない方でも、履きなれた靴があれば、お散歩感覚で気軽に自然を楽しむことが出来る所です。

深浦町では2014年夏に爆発的に売れた商品があります。その名も「青池ソフト」。青池の色にちなんで青いソフトクリームなのです。青い食べ物は売れないと言われていましたが見事に払拭してくれました。当初期間限定でしたが好評だったため、今年も販売予定です。お味は青池の謎にかけて秘密という事で(笑)。

もう一つ、定番の「ふかうら雪人参ソフト」もおススメ！ふかうら雪人参は、雪の下から掘りおこして収穫する、果物みたいに甘い人参です。その味を活かしたソフトクリームは地元でも人気です。

ここでしか味わえないものは他にもたくさん！是非リゾートしらかみに乗って、深浦町へ遊びに来て下さい。

支店職員一同、心よりお待ちしております。



青池ソフトの売り場

イーハトーブいわて物語～そういう旅に私はしたい。^(注)

「旅」には筋書きのない物語があります。私たちは訪れる方へ、その地域固有の文化を育んできた物語を提供します、そして、訪れる方には、その土地での様々な体験を通じて、オリジナルの物語を創っていただければと思います。

(注) 表題の「イーハトーブいわて物語～そういう旅に私はしたい。」は、2012年4月～6月まで展開された「いわてデスティネーションキャンペーン」のキャッチフレーズです。

※本稿は、「東北・北海道地区交流促進地銀連携事業」の一環として、**岩手銀行**から寄稿いただきました。

1. 岩手県の概要

岩手県は本州の北東部に位置し、東西約122km、南北約189kmと南北に長い楕円の形をしています。その面積は北海道に次ぐ広さであり、日本の国土面積の4%を占めています。

岩手県は大きく分けて、内陸部と沿岸部に分かれます。内陸部は、その大部分が山岳丘陵地帯で占められ、西側には秋田県との県境に奥羽山脈があり、これと平行して東側には北上山地が広がっています。そして、この二つの山系の間を北上川が南に流れ、その流域に平野が広がっています。沿岸部は、宮古市以北が典型的な隆起海岸で、海食崖や海岸段丘が発達しています。一方、宮古市以南は、北上高地の裾野が沈水してできた、日本における代表的なリアス式海岸で、対照的な景観を見せています。また、その沖合いは世界有数の三陸漁場となっており、優れた漁港・港湾にも恵まれています。

2. 岩手県の玄関口、県都「盛岡」

県都である盛岡市は、岩手県の玄関口です。新幹線で盛岡駅に到着し、ここから「岩手の旅の物語」が始まります。

江戸時代に「盛岡藩」が置かれていた盛岡市は城下町の面影が残り、市内には城郭、神社仏閣、国の重要文化財、巨大な花崗岩の割れ目から育った直径約1.35m・樹齢360年を超える国の天然記念物「石割桜」、そして温泉があります。また、第19代内閣総理大臣の「原敬」、第37

代内閣総理大臣の「米内光政」、作家の「宮沢賢治」「石川啄木」、国際連盟事務次長を務め、日本銀行券の五千円券の肖像となった「新渡戸稲造」など、岩手県出身の多くの偉人が青春時代を過ごした街であり、先人に関する石碑や施設が市内に点在しています。

盛岡市を代表する観光スポットとしては、国の重要文化財である「岩手銀行（旧盛岡銀行）旧本店本館」があり、街のシンボルの一つとなっています。同建物は、旧盛岡銀行本店として1911（明治44）年に開業した赤レンガの洋館であり、2012年8月3日まで、岩手銀行中ノ橋支店として銀行業務が行われていました。同建物の設計は、東京駅の設計でも知られる、辰野・葛西建築設計事務所によるもので、辰野金吾が設計した建築物としては東北地方に残る唯一の作品です。1977（昭和52）年1月20日に盛岡市保存建造物に、また1994年には、国の重要文化



岩手銀行（旧盛岡銀行）旧本店本館

財に指定されています。現在同建物は、調査と修復事業が進められており、2016年4月に一般向けに開館予定です。

3. 世界文化遺産「平泉」

岩手県の県南地域にある平泉町。平安時代の末期、「平泉」は奥州藤原氏三代によって黄金時代を迎えました。初代・清衡^{きよひら}は、戦のない平和な世界“理想郷”を実現するために、中尊寺を建立しました。その後、想いを継いだ二代・基衡^{もとひら}、三代・秀衡^{ひでひら}は毛越寺^{もうつうじ}を建立。金の産出が豊富だったこともあり、平泉は100年に渡って栄えました。それから約800年の時を越えた2012年6月、「平泉一仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群一」として世界文化遺産に登録されました。

「平泉」の世界文化遺産は、「中尊寺、毛越寺、観自在王院跡、無量光院跡、金鶏山」の5資産で構成されています。中でもその核となる中尊寺は、天台宗・東北大本山として、850（嘉祥3）年、慈覚大師^{えんにん}師円仁が創建したと伝えられており、その後、奥州藤原氏により多宝塔、二階大堂など多くの堂塔が建立されました。14世紀に堂塔は焼失しましたが、国宝第1号の「中尊寺金色堂」を始め、3,000点以上の国宝や重要文化財を現代に伝える宝庫となっています。ま



中尊寺本堂
<写真提供：(一財)岩手経済研究所>

た、中尊寺金色堂は、マルコポーロ「東方見聞録」における“黄金の国ジパング”のモデルになったと言われています。

平泉町へは、東北本線の盛岡駅から平泉駅まで、リゾートトレイン「ジパング」（専用列車）および普通列車にて、1時間30分でアクセスできます。

4. 歴史、自然の宝庫「三陸ジオパーク」

沿岸部は、東日本大震災による大津波の直撃で壊滅的な被害を受けました。東日本大震災から間もなく4年を経とうとしていますが、いまだ復興の途上にあります。そうした中、三陸沿岸地域が様々な観光面で注目されています。

三陸沿岸は、東日本大震災以降、NHKの連続テレビ小説「あまちゃん」の放映効果も相まって注目度が高まっています。2013年には、陸中海岸国立公園が、青森県の種差海岸^{たねさし}などを加えてエリアを拡大した上で、震災遺構も組み入れて「三陸復興国立公園」と名称を変更しています。また、2013年9月には、三陸復興国立公園と多くのエリアが重なる「三陸ジオパーク」が日本ジオパークに認定されました。ちなみに、ジオパーク（大地の公園）とは、地球活動の遺産を見どころとした自然の公園です。

三陸ジオパークは、震災遺構も後世に伝える遺産として、地球活動の歴史を実際に見ることができる地域（ジオサイト）に取り込み、「悠久の大地と海とともに生きる～震災の記憶を後世に伝え学ぶ地域へ」をテーマに、認定に向けた取り組みが行われました。三陸ジオパークのエリアは、岩手県を中心に青森県八戸市から宮城県気仙沼市に至る、南北約300km、面積約6,000平方kmにおよび、規模は日本最大です。ジオサイト数は48、ジオポイント（ジオサイト内の見学場所）数は130にも上ります。以下では、代表的なジオサイトから3カ所を紹介します。

○隆起海岸の「鵜の巣断崖」(田野畑村)

鵜の巣断崖は、足がすくむほどの圧倒的な高さが特徴で、崖の中腹にウミネコの巣があることからこの名がついています。弓状にえぐられた高さ200mの断崖が5列に連なる様は、巨大な屏風を立てかけたように見えます。吉村昭氏の「星への旅」の文学碑があり、遊歩道伝いに断崖下まで下りられます。



田野畑村の南部に位置する「鵜の巣断崖」。遠景は弁天崎
<写真提供：(一財)岩手経済研究所>

○三陸の景勝地「浄土ヶ浜」(宮古市)

浄土ヶ浜は、宮古の常安寺第7代霊鏡和尚が1680年代に「さながら浄土のごとし」と言ったことからこの名がつけました。約4千万年前、冷え固まったマグマででき、隆起の後、波や風雨に浸食され、白い岩肌と小石によって外海と遮断された波の穏やかな入り江が形成されました。太平洋の荒波を受ける入り江の裏側では男性的な景観が見られ、恐山と共通する「剣の山」「賽の河原」などの名勝があります。



浄土ヶ浜(外洋側)。流紋岩から形成される
<同上>

○近代製鉄発祥の地「橋野高炉跡」(釜石市)

近代製鉄発祥の地が橋野高炉です。現存する日本最古の洋式高炉跡で、周辺で取れる花崗岩を積み上げてできています。江戸幕末から明治期、近くを流れる水で水車を回し、それを動力源に周囲の木を木炭にし、周辺で採掘された鉄鉱石とで鉄が製造されました。製鉄には最適な環境だったのです。現在、橋野高炉跡のほか、鉄鉱石の採掘場跡、運搬路跡などの関連資産と共に、「橋野高炉跡及び関連施設」として世界産業遺産暫定リストに記載されている「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」の構成資産となっています。



世界産業遺産を目指す「橋野高炉跡」
<同上>

余談ではありますが、かつて日本選手権を7連覇した旧新日鐵のラグビー部は、現在、地域に密着したラグビークラブチーム「釜石シーウェイブス」として活動しています。釜石市では、2019年に日本で開催される「ラグビーワールドカップ」の開催都市の一つとして立候補してい

ます。釜石市へは、新幹線と釜石線を乗り継げば、公共交通機関だけでもスムーズにたどり着くことができますので、是非、足をお運びください。お待ちしております。

岩手県の農林水産業と6次産業化について

岩手県は北海道と同様に農林水産業が盛んな地域です。中でも今回は、^{ひろの}洋野町大野の酪農、^{とおの}遠野市の米からつくるどぶろくの取組みを例に、6次産業化を目指す地域の特徴と魅力についてご紹介します。北海道新幹線開業を機に、多くの方に岩手を訪れていただき、交流を深めたいと思います。

※本稿は、「東北・北海道地区交流促進地銀連携事業」の一環として、東北銀行から寄稿いただきました。

1. 岩手県の農林水産業について

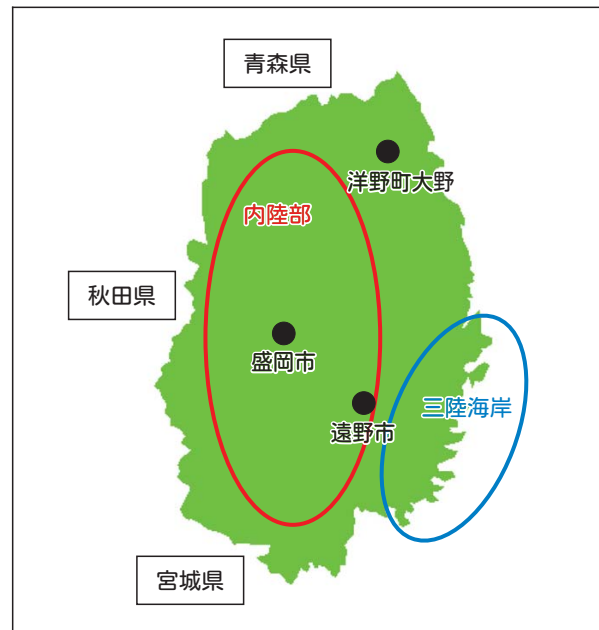
岩手県は本州の北東部に位置し、東西約122キロメートル、南北約189キロメートルと南北に長い楕円の形をしています（図表1）。その広さは北海道に次ぐ面積であり、日本の国土面積の4%を占めています。

岩手県の内陸部は大部分が山岳丘陵地帯で占められ、西側には秋田県との県境に奥羽山脈があり、これと平行して東部には北上高地が広がっています。そして、この二つの山系の間を北上川が南に流れ、その流域に平野が広がっています。この内陸部を中心に、広大な農地や変化に富んだ気象条件など農業資源に恵まれ、各地域の立地特性を生かして稲作や畜産が盛んなほか、全国一の生産を誇るりんどう（花卉）や、夏秋ほうれん草などの園芸産地も形成されています。

また、森林面積は県土の77%を占め、品質・性能の確かな木材製品の生産促進や木質バイオマスエネルギーの利用促進など、木材産業も盛んです。

沿岸の北部は、典型的な隆起海岸で海食崖や海岸段丘が発達しています。一方、沿岸の南部は、北上高地の裾野が沈水してできた、日本における代表的なリアス式海岸です。また、その沖合いは世界有数の三陸漁場となっており、漁獲量ではあわびが全国一位、さけが北海道に次いで第二位など、海産物にも恵まれています（図表2）。

図表1 岩手県の地図



（出所）東北銀行作成

図表2 主な農林水産物の生産量等について

	生産量等 ^(注1)	全国シェア	全国順位
ホップ	159t	46.5%	1位
りんご	42,200t	6.4%	3位
生しいたけ	5,978t	8.4%	3位
短角牛 ^(注2)	4,106頭	59.7%	1位
ブロイラー ^(注2)	94,995千羽	15.4%	3位
わかめ(養殖)	19,492t	37.2%	1位
あわび	283t	19.4%	1位
うに	1,483t	14.5%	2位
さけ・ます	18,405t	10.3%	2位

（注1）生産量等は、2010年もしくは2011年時点。

（注2）短角牛は飼養頭数、ブロイラーは出荷羽数。

（出所）岩手県ホームページ「いわてお国自慢」

2. 地域の酪農家達の夢

岩手県の北東部、青森県との県境に位置する洋野町大野は、県内でも畜産が盛んな地域です。ここに、地域の酪農家が主体となって立ち上げた株式会社おおのミルク工房があります。JAが設備したミルクプラントを引き継いだ当社は、酪農家が搾りたての生乳を自宅で沸かして飲む味に近い牛乳をつくろうと考え、比較的低温である85℃で20分間殺菌する製法に辿り着きました。これには「ゆめ牛乳」との名前が付けられました。そして、首都圏向けではなく地元で根差した販売を始め、地元の小中学校の給食に採用されるなど着実に地域に定着してきました。

現在、同社では、乳製品を地域の農産物や海産物とコラボした新商品の開発に積極的に取り組んでいます。近隣にある野田村の天然塩を使ったソフトクリーム「のだ塩ソフト」や、青森県たっこ田子町のにんにくと合わせた「にんにくソフト」を開発し、地元の人気商品となっています。

このような取組みは、生産者が加工・販売まで一気通貫して取組む「6次産業化」と呼ばれます。東北銀行では、同社の6次産業化を支援し、地域経済の活性化を図るべく、6次産業化ファンド「とうほくのみらい応援ファンド」での出資を決定しました。

ファンドの活用により、生産性が向上した同社では、新たな商品を開発し、様々な乳製品を多く消費者に届ける夢を追っています。

3. 日本のふるさと～遠野のどぶろく

岩手県中部で北上高地に囲まれた遠野市は、柳田國男の『遠野物語』のもととなった、河童や座敷童子などが登場する民話が受け継がれているまちです。

遠野市の農業は、米や野菜の生産、和牛肥育などが盛んであり、これら耕種農家と畜産農家が相互に有機肥料、牧草・稲わらを供給・利用

する仕組み＝循環型農業が行われています。

また、2003年11月に構造改革特別区域法（特区法）に基づく特区計画である「日本のふるさと再生特区」の内閣総理大臣認定を受け、通称「どぶろく特区」の全国第1号となりました。市内には4カ所の酒蔵があり、自家産米を使用した醸造で、それぞれに味や風味が個性的です。

どぶろく特区制定から10年が経ち、「遠野のどぶろく」を改めて発信しようとする動きがあります。東北銀行では、2014年12月に遠野市と地域活性化に向けた連携協定を結び、これに基づいて、どぶろくの新たな商品開発を支援しています。当行の食のアドバイザーが、事業者である一般社団法人遠野ふるさと公社と連携し、「どぶろく飴」を開発しました。お酒が飲めない人にもどぶろくの美味しさを知ってほしいとの思いから、特に女性をターゲットにした商品となっています。金華糖と呼ばれる飴の製法で、ほろほろとした口溶けと、どぶろくが持つ米麴と酒の風味を楽しむことができます。この「どぶろく飴」は、雛祭りの時期（2/20～）に合わせて発売する予定です。

4. 北海道新幹線開業に向けて

岩手県には、海の幸・山の幸それぞれに豊かな地域資源があります。さらにこの資源を活かすべく、各地で6次産業化への取組みが進んでいます。

北海道新幹線開業を機に、北海道と東北間の交流人口増加が見込まれます。北海道民の皆様には、是非とも岩手県各地の特産品を見て、味わい、楽しんでいただきたいと思います。そこから道県の枠組みを越えた新たなビジネスが生まれることを期待しています。

東北銀行の職員が紹介する「地元のイチ押しスポット」

【推薦者】 久慈支店支店長 森 宏樹 さん

【内 容】 「久慈市のじぇじぇじぇなスポット」

久慈市を訪れた際に、是非一度お越しいただきたい場所は小袖海岸です。小袖海岸は、断崖と赤銅色の岩礁の海岸であり、2013年度上半期のNHK朝の連続テレビ小説『あまちゃん』のロケ地にもなったところで

す。夏季には、『あまちゃん』で有名になった「北限の海女」さん達の素潜り漁の実演を見ることができます。また、小袖海岸を代表する奇岩「つりがね洞」は、洞窟の穴と朝日がちょうど重なる夏至ごろの光景が見ものです。さらに、B-1グランプリにも出品した久慈の郷土料理「まめぶ汁」は、久慈駅前にある「まめぶの家」にてご賞味いただけます。また、久慈から少し足を伸ばして、隣村の野田村にある「道の駅のだ」には、おおのミルク工房さんが隣のだむらから製造受託している「のだ塩ソフト」があります。野田村産の天然塩が使用され、ほのかな塩味がさっぱりしたバニラの味を引き立て、まさに「じぇじぇじぇ！」な美味しさです。県内各地からこれを求めて訪れるリピーターも多く、地元で愛されている商品です。是非ご賞味ください。



地元のアイドル「あまくらぶ」
<(一社)久慈市観光物産協会HPより>



のだ塩ソフト
(道の駅のだHPより)

【推薦者】 ^{とおの}遠野支店支店長 野村 貴志 さん

【内 容】 「伝承が息づくまち～遠野について」

遠野市を訪れた際に、是非一度お越しいただきたい場所は、土淵町にあるカッパ淵です。カッパ淵とは、土淵町の常堅寺裏を流れる小川の淵のことで、その昔、カッパが多く住んでいて、人々を驚かし、いたずらをしたと言われていました。澄んだ水がさらさらと流れるカッパ淵は、うっそうとした茂みに覆われ、今にもカッパが現れそうです。淵の岸辺には、カッパ神を祀った小さな祠があり、子持ちの女性が「お乳が出るように」と願いをかけると叶うとされています。また遠野は城下町であり、内陸と沿岸をつなぐ交易の場所だったことから、町家には、古くからの雛人形が数多く伝えられています。今では、それぞれの町家に伝わる雛人形を見て歩く「ひなまつり」を開催しています。例年、2月下旬から3月上旬に開催されており、今年は2月20日(金)～3月3日(火)に行われます。さらに今回から、ひなまつり開催に合わせて「どぶろく飴」が発売予定とあって、私も楽しみにしています。皆様、日本のふるさと遠野で、ゆっくりとした時間を過ごしてみませんか。



カッパ淵
(写真提供：遠野市観光協会)



遠野ひなまつり
<(公財)若手県観光協会HPより>

2015年の宮城県、仙台市の動き

宮城県、仙台市では、2015年に、①仙台市地下鉄東西線の開業、②仙台うみの杜水族館の開業、③国連防災世界会議の開催、④仙台空港民営化への取組み、⑤ILC（国際リニアコライダー）の誘致、など地域経済に大きな影響を与えるプロジェクトが予定されていることから、その概要についてご紹介します。

※本稿は、「東北・北海道地区交流促進地銀連携事業」の一環として、七十七銀行から寄稿いただきました。

1. 仙台市地下鉄東西線の開業

仙台市では、1987年に開業した地下鉄南北線（以下、南北線）が市民の足として利用されていますが、仙台市の地下鉄としては2路線目となる地下鉄東西線（以下、東西線）が2006年度からの工事を経て、2015年12月6日に開業予定

となりました（図表1）。

東西線は仙台市西部の八木山動物公園駅から東部の荒井駅までの計13駅（約13.9km）を結び、急勾配の安定的な走行が可能なリニアモーター式の車両を採用します。予定利用者数は1日あたり約8万人が見込まれ、仙台駅までの所要時

図表1 地下鉄東西線の概要

駅名	予想乗降客数（人／日）			仙台駅までの所要時間	主な駅周辺施設・教育機関
	乗車客数	降車客数	合計		
八木山動物公園	8,019	7,716	15,735	12分	八木山動物公園、八木山ベニーランド 東北工業大学
青葉山	7,188	9,325	16,513	9分	東北大学青葉山キャンパス 宮城教育大学
川内	1,265	952	2,217	6分	宮城県美術館 東北大学川内キャンパス
国際センター	1,389	1,388	2,777	4分	仙台国際センター、仙台市博物館 宮城第一高校、仙台第二高校
大町西公園	2,385	2,652	5,037	3分	西公園、仙台市戦災復興記念館 瑞鳳殿
青葉通一番町	5,764	6,818	12,582	2分	ぶらんどーむ一番町、クリスロード商店街 東北大学片平キャンパス
仙台	27,645	26,452	54,097	—	JR仙台駅 ペDESTリアンデッキ
宮城野通	3,948	4,700	8,648	2分	仙台アンパンマンこどもミュージアム&モール 仙台サンプラザ、コボスタ宮城
蓮坊	2,503	2,291	4,794	4分	仙台二華中学校・高校 仙台第一高校
薬師堂	5,017	4,561	9,578	6分	聖和学園高校 聖ウルスラ学院英智中学校・高校
卸町	5,813	5,200	11,013	9分	仙台卸商センター
六丁の目	4,272	3,639	7,911	11分	仙台工業団地 仙台印刷工業団地
荒井	4,456	3,970	8,426	14分	仙台うみの杜水族館（2015年7月開業予定） 仙台市農業園芸センター
合計	79,664	79,664	159,328		

（出所）仙台市、仙台市交通局

間は八木山動物公園駅からは約12分、荒井駅からは約14分と短時間で中心部への移動が可能となります。中心部への移動手段が車やバスであった地域に東西線が開通することで、渋滞緩和の効果が期待されるとともに、南北線との乗継により仙台市の副都心である北部の泉中央地域や南部の長町地域への移動も利便性が向上することから、地域住民の通勤・通学時間の短縮が図られます。また、観光、プロスポーツ観戦（野球・サッカー・バスケットボール）などでの移動手段としても大いに活用され、交流人口の拡大が期待されます。最近では、東西線設置予定駅の周辺地区において宅地開発やアミューズメント施設の開発などの動きが活発化しており、地域経済の発展に大きく貢献しています。

なお、2014年12月6日には南北線でICカード「icsca」（イクスカ）が導入され、今後は東西線、仙台市営バスおよびJR東日本の「Suica」（スイカ）との相互利用が開始される予定となっており、仙台市内の公共交通機関の利便性が一層向上することが期待されています。

2. 仙台うみの杜水族館の開業

2015年7月、仙台市の仙台港背後地の高砂中央公園内に「仙台うみの杜水族館」（以下、水族館）が開業する予定となっています（図表2）。

水族館事業は、総事業費約65億円をかけて行われる民間プロジェクトであり、水族館の運営は、「三井物産株式会社」、運営ノウハウを有する「株式会社横浜八景島」、及び地元企業の「カメイ株式会社」「株式会社ユアテック」「株式会社河北新報社」「株式会社仙台三越」の計6社の民間企業と「一般財団法人民間都市開発推進機構」との共同出資により設立した「仙台水族館開発株式会社」が行います。

水族館は、三陸の海に棲息する生き物をあり

のままの姿で展示した大水槽をはじめ、山・里・川を再現したコーナーや生き物と触れ合えるコーナー、東北最大級のショープールなどを設置し、開業初年度の入館者数は100万人、平年ベースでは85万人を見込んでいます（仙台市HPより）。

水族館は、仙台東部道路の仙台港ICに隣接し、周辺には「三井アウトレットパーク仙台港」をはじめとする大型商業施設が立地しています。車でのアクセスが便利であることや2015年12月には地下鉄東西線が開業することなどから、地元宮城県をはじめ他県から多数の入館者が見込まれ、交流人口の拡大に大きく貢献することが期待されます。



仙台うみの杜水族館完成予想図
（写真提供：仙台水族館開発株式会社）

図表2 「仙台うみの杜水族館」の概要

建設地	仙台市仙台港背後地
総事業費	約65億円
構造・階数	鉄骨造り・地上2階
建築面積	約6,100㎡
延床面積	約9,900㎡
総水量	約3,000 t
展示水槽数	約100基

（出所）仙台水族館開発株式会社HP

3. 第3回国連防災世界会議の開催

2015年3月14日～18日の5日間にわたり、仙台市の仙台国際センターおよび同センターに隣接する新展示施設等において、第3回国連防災世界会議が開催されます。

国連防災世界会議とは、国際的な防災戦略について議論する国連主催の会議で、193カ国の国連加盟国、国際機関およびNGO等が参加し、今後の世界の防災戦略を策定します。なお、第1回会議(1994年)は横浜、第2回会議(2005年)は神戸で開催されており、いずれも日本の主要都市での開催となっています。特に、第2回会議では2005年から2015年までの国際的な防災の取組方針である「兵庫行動枠組」が策定されるなど、大きな成果をあげています。

仙台で開催される第3回会議では、「兵庫行動枠組」の後継枠組の策定が行われる予定であり、世界的に有意義な会議となることが予想されます。また、本会議とは別に、政府機関、地方自治体、NPO、NGO、大学、諸団体などが主催する復興・防災をテーマにしたシンポジウムなどのパブリックフォーラムが多数開催される予定であり、国内外から延べ4万人以上の参加が見込まれています。

国連防災世界会議の仙台開催は、仙台の魅力や震災後の復興の状況などの情報を国内外に発信する絶好の機会となるほか、交流人口の拡大が期待されることから、宮城県に大きな経済波及効果をもたらすとともに、震災からの復興に大きく貢献するものと考えられます。

4. 仙台空港民営化の動き

2013年6月、民間の能力を活用した国管理空港等の運営等に関する法律(以下、民活空港運営法)が成立し、国管理空港の所有権を国等が保有しつつ、その運営権を民間事業者等へ売却することが可能となりました。これにより、2014年

4月には、仙台空港の民営化が民活空港運営法に基づく第1号案件に正式決定しました。宮城県は、仙台空港の運営権者の公募を2014年6月に開始しており、今後、国による第1次審査、第2次審査を経て、2015年8月には運営権者が決定し、2016年3月に民営化による空港運営事業が開始する予定となっています。なお、宮城県では、仙台空港民営化の30年後には、年間乗降客数を600万人(2013年度比1.9倍)、年間貨物取扱量を5万トン(同8.2倍)とする目標を掲げており、航空ネットワークの拡充・強化と物流拠点としての機能強化を目指しています(図表3)。

この仙台空港民営化に伴い、①着陸料引下げに伴う就航数・旅客数・貨物取扱量の増加、②旅客ターミナルビルの魅力向上、③国内外からの誘客による広域観光の基盤拡充、④「食」等の関連産業の集積・拠点化など、あらゆる波及効果が考えられます。

図表3 仙台空港の乗降客数・貨物取扱量の推移

年 度	乗降客数(千人)	貨物取扱量(t)
2008年度	2,947	15,133
2009年度	2,799	13,901
2010年度	2,622	10,803
2011年度	1,846	3,037
2012年度	2,700	5,720
2013年度	3,147	6,090

(出所) 国土交通省

5. ILC(国際リニアコライダー)誘致の動き

ILCとは、全長約30km余りの地下トンネルの中に設置される巨大加速器で、この地下トンネルの中央部で電子と陽電子を衝突させ、宇宙初期に迫る高いエネルギー反応を作り出すことで時間と空間の構造や質量の起源を解明し、宇宙創造の謎に迫ることを目的としています。国際宇宙ステーション、国際熱核融合実験炉とと

もに「21世紀の人類3大プロジェクト」の一つとされており、国際協力のもと世界に1カ所のみ建設されることとなっています。その応用範囲は、医療・生命科学から新機能の材料・部品の創出、情報・通信、計量・測量、環境・エネルギー分野など、多岐にわたると考えられています。

2013年8月、I L C立地評価会議が、I L Cの国内建設候補地として宮城県北部を含む北上山地に決定しました。これにより、日本に建設されることが正式に決定した場合、北上山地がI L Cの国内建設地となる可能性が非常に高くなっています。しかし、高額な建設費をどのように賄うかなど、財源確保の問題などもあることから、今後は、2～3年をかけて日本学術会議の指摘等を踏まえながら、I L C分野以外の有識者および関係政府機関も含めた集中的な調査・検討を進めていく予定となっています。

I L Cが誘致された場合、建設（10年）から運用（20年）までの30年間で期待される経済波及効果は、生産誘発額が4.3兆円、誘発雇用者数は約25万人と推計されています（「東北I L C推進協議会」推計）。産業振興や雇用創出等で大きな経済波及効果が期待されるほか、世界各国から研究者が常時在住することで、交流人口の拡大や観光などの地域振興面でも大きな効果が期待されます。宮城県においても、東北大学等の学術機関が数多くあることや、仙台空港などの交通機関および宿泊施設等が充実していることなどから、I L Cの誘致は大きなメリットがあるものと考えられます。

おわりに

本年は、東日本大震災の発災から5年目となりますが、今回ご紹介したプロジェクトの多くが本年中に具現化することとなります。これらを契機として、震災からの復興がさらに加速していくことが期待されます。

（参考資料）

- ・ 仙台市HP「東西線沿線まちづくり」
- ・ 仙台市交通局HP「東西線事業概要」「東西線事業再評価」
- ・ 仙台水族館開発株式会社「プレスリリース・仙台水族館（仮称）名称決定（2014年10月23日）」
- ・ 仙台水族館開発株式会社HP「仙台うみの杜水族館概要」「会社概要」
- ・ 仙台市HP「水族館事業について」「入館者見込数について」
- ・ 第3回国連防災世界会議仙台開催実行委員会HP「国連防災世界会議とは」
- ・ 国土交通省「仙台空港特定運営事業等実施方針」「仙台空港特定運営事業等募集要項」
- ・ 宮城県「プレスリリース・仙台空港特定運営事業等の公募開始について（2014年6月27日）」
- ・ 東北I L C推進協議会HP「I L Cを核とした東北の将来ビジョン」

秋田県における観光の現状と振興に向けた取り組み

秋田県の観光はこれまで誘客力にやや弱さがみられましたが、近年では、民間事業者や地域団体、行政が連携し、地域おこしと一体の誘客活動に取り組んでいます。本稿では、県内観光の振興に向けた取り組みや大規模イベントに伴う経済波及効果などについて紹介します。

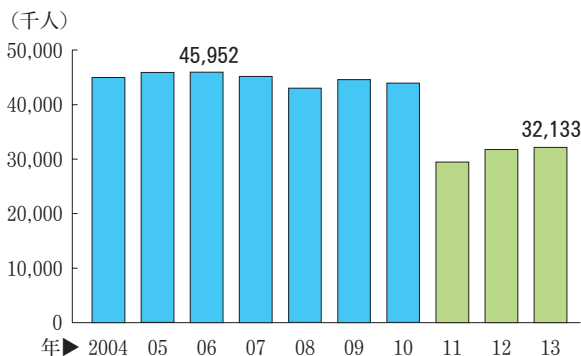
※本稿は、「東北・北海道地区交流促進地銀連携事業」の一環として、秋田経済研究所（秋田銀行）から寄稿いただきました。

1. 東日本大震災により観光客数大幅減

本県の観光客数は、2006年に過去最多の4,595万人となった後、景気後退や豪雪などによる影響から頭打ちとなり、2011年の東日本大震災の発生により一層大きく落ち込みました（図表1）。2013年は3,213万人と、「秋田デスティネーションキャンペーン（以下、DC）」などのイベント効果もあり前年を上回りましたが、前年比増加率は1.2%増と小幅にとどまりました。本県では、震災の影響は薄れつつあるものの、観光客数の本格回復には至っていないのが現状です。

本県の観光客数は、春・夏の特定時期に偏って多いことが特徴です。2013年の月別割合でも、8月が24.4%と、「秋田^{かんとう}竿燈まつり」や「全国^{おおまがり}花火競技大会『大曲の花火』」、各地域の夏祭りの開催などから突出して多くなっています。5月（同11.7%）も、「角館^{かくのだけ}の桜まつり」などによる顕著な集客効果がみられます。一方、冬季は降雪により客足が少なく、通年観光化が大きな課題となっています。

図表1 県内観光入込客数の推移（延べ人数）



（注） 2011年から調査方法が変更されたため、2010年以前と単純比較できないことに留意が必要。

（出所）秋田県「秋田県観光統計」

2. 伸び悩む宿泊者数

県内宿泊者数は、2010年に313万人とピークを迎えた後は伸び悩み、2013年は284万人となっています（図表2）。観光庁「宿泊旅行統計調査」によると、県内宿泊施設の定員稼働率（2013年）は27.1%で、滋賀県と並び全国38位と下位に位置し、いわゆる「通過型観光地」となっています。その背景には、本県は、伝統文化や温泉、食など多くの観光資源を持ちながら、年々増える傾向の個人・グループ旅行のニーズに沿う商品作りの面で取り組みがやや遅れていること、また、これらの資源に景観や宿泊施設を組み込んだ魅力的なルート開拓なども後手に回っていることなどの事情があります。そのため、他地域に多くの客足を奪われる結果となっています。

次に、外国人宿泊者数は、統計を取り始めた2002年以降、アジアからの観光客を中心に増加が続いています。特に、2010年には韓国テレビドラマ「アイリス」の放映効果などから韓国人観光客が急増し、外国人宿泊者数は過去最多の6万人となりましたが、2011年以降は、原発事故の風評、日韓関係の冷え込みなどの影響から低迷し、2013年は3万人とピーク時から半減しました。2013年の外国人宿泊者の国別内訳割合は、韓国が全体の28.4%と最も高く、次いで、台湾（同25.8%）、中国（同10.1%）などとなっています。

図表2 県内宿泊者数の推移(延べ人数)
(千人)

年	総数	県内客	県外客	うち外国人
2008	2,997	848	2,141	42
2009	2,896	809	2,076	45
2010	3,132	879	2,211	64
2011	2,734	816	1,878	22
2012	2,838	807	1,980	24
2013	2,835	813	1,943	32

(注1) 従業者数10人以上の施設
(注2) 宿泊者総数には居住地不詳者も含む
(出所) 観光庁「宿泊旅行統計調査」

3. 観光振興へ向けた取り組み

近年、観光をビジネスチャンスに活用するため、各地域では、民間事業者と地域団体、行政が連携し、地域おこしと一体の観光誘客活動に取り組む事例が増えています。例えば、これまで十分に活用されていなかった地域固有の歴史や伝統文化などに改めて光を当て、それらをテーマにしたイベントの開催や、新たな観光資源化を図る取り組みが見られます。

横手市増田では「内蔵」を活用し集客力を高めています。内蔵とは主屋の背面にあり、主屋と「鞘(注1)」で接続している土蔵のことで、町内には現在、主に明治時代から大正にかけて建築された約50軒が残っています。いずれも檜や杉といった良材がふんだんに用いられ、細やかな装飾が施されています。当時は立ち入りが当主または家族のみに限られていたこともあり、これまで対外的にあまり知られることがありませんでしたが、時の経過とともに歴史ある建物としての価値が高まり、地域全体でもその魅力を再認識するようになりました。

同地区では、2005年から内蔵の一般公開を実施し、街並み整備、観光案内所の設置、観光施設の充実など、観光客の受け入れ基盤の整備にも取り組みました。その結果、「増田の蔵」の知名度は全国区に高まり、県外からも多くの観

光客が訪れるようになりました。更に、町中心部にある商店街通りは、一定の範囲に内蔵が密集して現存していること、内部の作りが豪華であることなどが評価され、2013年には、国の重要伝統的建造物群保存地区(注2)に選定されました。

(注1) 主屋と一体化した上家建物のこと。
(注2) 文化財保護法に定める文化財の一種。



横手市増田の内蔵
(写真提供：一般社団法人秋田県観光連盟)

4. 県による観光振興支援体制の強化

県では、観光産業を、第1次から第3次産業までの全産業の力を結集させる総合戦略産業として位置づけ、それらをトータルな形で振興する方針を打ち出しています。その一環として、2012年度に「観光文化スポーツ部」を新たに設置し、食や文化、スポーツなど関連分野と一体で振興の支援事業を進めています。特に、地域との連携による地域資源の掘り起こしやブラッシュアップ、人材の育成、県をあげてのおもてなしの向上などに取り組んでいます。また、スポーツや環境意識、健康意識をテーマにした「ニューツーリズム」の展開も推進しています。

5. 大規模イベント開催による経済波及効果

本県は、2013年に「DC」、2014年には「第29回国民文化祭・あきた2014(以下、国民文化祭)」、「アフターDC」と、全国規模のイベントを複数開催しました。

このうち、「DC」の開催期間中（2013年10～12月）における、県内観光客数は608万人（前年同期比13.9%増）、主要施設の宿泊客数は55万人（同6.6%増）と前年同期を上回りました。秋田経済研究所では、「DC」実施による観光消費額の増加（直接効果）は30.9億円、経済波及効果（総合効果）は50.2億円と試算しました（図表3）。

大規模なイベント開催を通じ、本県は地域の観光資源の価値を再認識するとともに、振興に係る多くのノウハウや示唆を得ることができました。今後は、これまでの取り組みに加え、この経験も活用しながら、一層の観光客増加を図っていく予定です。

図表3 秋田DC開催中の観光消費支出増加による経済波及効果 (百万円)

	生産誘発額	粗付加価値誘発額	
		雇用者所得誘発額	雇用者所得誘発額
直接効果	3,085	1,365	741
一次波及効果	1,360	762	337
二次波及効果	571	364	136
総合効果	5,016	2,490	1,214
波及効果倍率	1.6倍		

(注) 波及効果倍率＝総合効果÷直接効果
(出所) 秋田経済研究所

6. 秋田の伝統・文化を全国に向けて発信

本県の豊富な観光資源の中でも、素朴でありながら多様性に富んだ食文化は、外国人を含む観光客に人気があります。生産量の多い米関連や、寒冷な気候を活用した発酵食品が多く、清酒、漬物、「きりたんぼ」、「しょつつる」などが有名です。特に、古くから酒造りが盛んで、現在も県内39の蔵元を中心に業界が一丸となり「秋田の酒」のブランド力向上に取り組んでいます。

また、本県は、「秋田竿燈まつり」や「西馬音内盆踊り」など、国の指定を受けた重要無形民俗文化財が17件と全国最多です。これは、県民が伝統文化を大切にし、長い間守り続けてきた成

果と言えます。しかし、これまでは観光との結びつきが弱く、このような観光資源を観光振興に活用できなかったのも事実です。

前述のとおり、昨秋、本県は「国民文化祭」を開催し、伝承芸能のほか、音楽、美術など110の事業を実施しました。国民文化祭には、100万人を超える観光客が来場し、県が行ったアンケート結果では、県外客の89.5%が「国民文化祭が秋田のファンの増加につながる・ややつながる」と回答しました。「国民文化祭」の開催は、本県の伝統文化を県民が再認識するきっかけとなっただけでなく、本県の持つ観光資源の魅力を広く県外に発信する機会ともなりました。

現在、県内では、札幌との定期航空便の増便、日本海沿岸東北自動車道や東北中央自動車道の整備などが進み、アクセスも改善しています。「もったいない精神」を発揮し、国民文化祭で実現できた“あるもの探し”“あるもの磨き”を昇華させることによって、県内外のファンならびにリピーターの増加に繋げていきたいと考えます。



秋田竿燈まつりの様子
(写真提供：一般社団法人秋田県観光連盟)

大仙市「花火産業構想」に基づく地域活性化への新たな挑戦

「大曲の花火」で有名な秋田県大仙市では、花火大会で培った地域のブランド力を活かし、製造業や観光、商業、農業、文化、教育に至る幅広い分野にまたがった地域活性化に取り組もうとしています。本稿では、その取り組みの概要についてご紹介します。

※本稿は、「東北・北海道地区交流促進地銀連携事業」の一環として、フィデア総合研究所(北都銀行)から寄稿いただきました。

1. 大仙市の概要

秋田県の南東部に位置する大仙市は、2005年に大曲市と周辺7町村が合併し、人口約9万人の市として新たに誕生しました。

大仙市は、日本有数の穀倉地帯である仙北平野を中心に、東部には奥羽山脈、西部には出羽山地のなだらかな丘陵と森が広がり、その間を雄大な雄物川が流れる自然豊かな地域です(図表1)。米を中心とする農業は今でも地域の基幹産業となっていますが、古くは雄物川の舟運が栄え、戦後も鉄道や主要幹線道路の結節点となるなど、地域経済・交通の要衝としても発展してきました。

図表1 大仙市の位置



(出所) 大仙市HP

2. 「創造花火」が「大曲の花火」の魅力

大仙市では毎年8月の第4土曜日に「全国花火競技大会 大曲の花火」が開催されます。一夜限りのイベントにもかかわらず、県内外から大勢の観覧客が訪れ、毎年70万人以上の人出で賑わいます。フィデア総合研究所では、観覧客の支出額などを基に花火大会の経済波及効果を試算し、155億円以上と公表しています(注)。花火大会としては全国屈指の経済波及効果を持っており、地域活性化に大きく寄与していることが分かります。また、花火大会の全国的な知名度や人気の高さも目を見張るものがあります。毎年、夏が近づくに連れて全国の主要花火大会を紹介する各種雑誌やホームページ等で大きく紹介されるほか、満足度ランキングでも上位を占めています。

こうした「大曲の花火」の人気を支えるのは、全国から選り抜かれた28人の花火師たちが自慢の腕を競い合う「創造花火」にあります。花火師たちは2分30秒という限られた時間の中で、音楽の曲調や歌詞にあわせて次々と夜空に花火を打ち上げていきます。打ち上げるリズム感や音楽との調和、色彩、立体感や打ち上げの構成など、打ち上げ技術の高さはもとより、作品としての創造性や独自性も問われることから、花火師にとっては自身の総合力が試されるというわけです。今でこそ「創造花火」は全国各地の花火大会で催されるようになりましたが、大仙市はその発祥の地ということもあり、競技にかける花火師達の熱意や真剣さは他に類を見ないほどです。また、その年に最も評価の高かった

花火師には内閣総理大臣賞が授与されることもあり、さながら「腕を振るう競技の殿堂」として全国の花火師から一目置かれる大会となっています。

(注) 株式会社フィデア総合研究所「第84回全国花火競技大会『大曲の花火』開催に伴う経済波及効果」(2010年10月)

3. 「花火産業構想」とは？

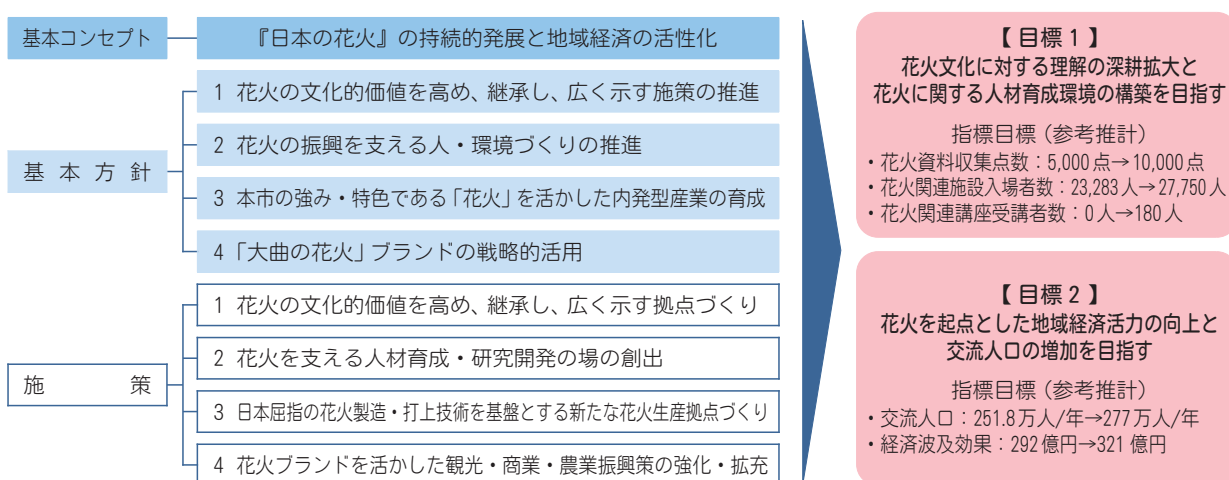
「花火産業構想」は「大曲の花火」が持つブランド力を最大限活かし、製造業や観光、商業、農業、文化、教育に至る幅広い分野にまたがった発展軸を形成しながら地域を活性化させるための方策を示したものです(図表2)。地域資源である「大曲の花火」を産業振興やまちづくりの役に立てようというのです。この構想は大仙市と大曲商工会議所、大仙市商工会で構成する花火産業構想策定プロジェクト会議が2014年3月に取りまとめました。2014年4月から5年間を構想期間の第I期とし、「花火文化に対する理解の深耕拡大と花火に関する人材育成環境の構築」を目指すとともに、「花火を起点とした地域経済活力の向上と交流人口の増加」を目指しています。

構想策定の背景にあるのは、人口減少と高

齢化の進展で懸念される地域活力の低下です。2010年の国勢調査によれば、大仙市の人口は9万人を割り込んで88,301人となったほか、65歳以上人口の占める割合(高齢化率)もついに3割を超えて31.1%となるなど、人口減少・高齢化が進んでいます。とりわけ、進学や就職を機に市外や県外へ転出する若者は後を絶たず、転出が転入を上回る状況がしばらく続いていることから、これからも人口減少と高齢化はますます加速していくものと見込まれています。このように、持続可能性を意識したまちづくりを進めていくことが地域共通の課題になっているというわけです。

一方、2014年は「大曲の花火」が発祥である創造花火が生まれて50周年となる記念すべき年でもありました。「花火産業構想」は「大曲の花火」をこれまで支え続けてくれた花火師や花火業界への感謝と恩返しの意味も込められています。将来の花火業界を支える人材の育成はもちろん、花火の文化的価値を高め継承することも全国の花火師の活躍をさらに後押しすることになります。「大曲の花火」だけでなく日本の花火全体の発展にも寄与したいという願いも込められています。

図表2 「花火産業構想」の概要



構想期間(第I期) 2014年4月~2019年3月(5ヵ年)

(出所) 花火産業構想策定プロジェクト会議「大仙市 花火産業構想」(2014年3月)よりフィデア総合研究所作成

4. 花火を活用した4つの施策と想定事業

「花火産業構想」の中では4つの施策が示されています。また、施策ごとに具体的な事業が想定されていますので、以下で順番にその概略をご紹介します。

施策1で想定されている事業としては「(仮称)花火伝統文化継承資料館整備事業」と「(仮称)花火文化資料展示事業」、「(仮称)花火地域情報発信事業」、「(仮称)まちなか花火デザイン導入事業」などの7つの事業があります。施設整備や拠点づくりを通して花火の文化的価値を高め、継承し、広く示すことが狙いとなっています。

施策2で想定されている事業は「(仮称)花火に関する人材育成事業」と「(仮称)花火師確保支援事業」、「(仮称)花火の共同研究・開発事業」の3つの事業です。伝統産業である花火産業の底上げや産学連携による共同研究を通じて日本の花火の発展に寄与するイノベーション(技術革新)を引き起こすことが狙いとなっています。

施策3で想定されている事業は「花火工場運営会社設立事業」と「(仮称)花火産業創出支援事業」「(仮称)大曲花火生産拠点整備事業」「(仮称)花火打上サポート事業」の4つの事業です。新たに花火工場を設立し、花火玉製造の効率化と販路拡大、海外への輸出を視野に入れたプロモーション活動などを展開する予定です。日本屈指の花火製造・打上技術を基盤としてより高い付加価値づくりを追求していくのが狙いです。

施策4で想定されている事業は「(仮称)花火パーク整備事業」と「(仮称)戦略的花火ブランド活用事業」、「(仮称)花火関連会議等誘致推進事業」、「大曲の花火ウィーク開催事業」、「市内各花火大会の支援等」となっています。観光や商業、農業などの各産業分野や教育・文

化などの分野でも花火を活用して地域の活力向上につなげていく狙いがあります。

なお、本稿執筆時点(2015年1月)では、「花火産業構想」で提示されているこれら事業の具体的な内容やロードマップを検討する作業が進められており、今後アクションプランとして取りまとめられる予定になっています。

5. 花火を活用した地域活性化への挑戦

私たち日本人にとって花火は大変馴染みの深い伝統文化の一つです。日本の夏を彩る風物詩と言っても過言ではないでしょう。しかし、見て楽しむだけでは一夜限りのイベントに終始してしまいます。大仙市では花火の新しい付加価値づくりに挑戦し、花火の効果が365日間持続し、地域の隅々まで行き渡るような仕組みづくりを構築しようと頑張っています。

もちろん、花火大会に訪れる観覧客にとってもさらに魅力ある大会になることは言うまでもありません。まだ「大曲の花火」を見たことが無いという方はこの機会に是非足を運んでみてください。また、すでに体験されたことのある方も「大曲の花火」の新たな挑戦を温かく見守っていただければ幸いです。皆様のお越しをお待ちしております。



「大曲の花火」の様子
(写真提供) 大曲商工会議所「全国花火競技大会『大曲の花火』公式HP」

山形湯めぐり案内

山形県内には、宿泊施設を備えた温泉地が90カ所あります。全国的にみれば決して数は多くないものの、それぞれの温泉地において特色ある取り組みが行われています。そこで本稿では、山形県内の温泉観光の現状について触れ、主要な温泉観光地についてご紹介したいと思います。

※本稿は、「東北・北海道地区交流促進地銀連携事業」の一環として、**山形銀行**から寄稿いただきました。

1. 山形県内の温泉の特徴

環境省自然環境局の調査によると、山形県内には、2013年3月末現在、宿泊施設のある温泉地が90カ所あり、温泉地の数としては全国で11番目の多さとなっています。また、公衆浴場のある温泉地も含めると合わせて138カ所あり、市町村別にみると、県内35市町村すべてに温泉利用施設を備えた温泉地が存在しています。観光客が多く訪れる比較的規模の大きな温泉地もあれば、地元住民の利用が多い小規模な温泉地もあり、山あいの温泉地もあれば、海沿いの温泉地もあるなど、どの市町村に行っても、その土地ならではの個性豊かな温泉を楽しめます。

また、県内全域で温泉が湧出しているために、泉質がバラエティに富んでいるのも山形県内の温泉の特徴です。主要な泉質別に温泉地数をみると、温浴効果が高くあたたまりの湯として知られる塩化物泉や、成分が薄めで入り心地の優しい単純温泉、動脈硬化などにも効果があるといわれる硫酸塩泉、美肌の湯である硫黄泉などの温泉地が多くみられます(図表1)。そのほかにも炭酸水素塩泉、酸性泉、含鉄泉など様々な種類の泉質をもつ温泉地が県内各地に分布しており、効能によって温泉を使い分けることができます。

図表1 主要泉質別温泉地数

塩化物泉	51
単純温泉	34
硫酸塩泉	26
硫黄泉	16
炭酸水素塩泉	6
酸性泉	3
含鉄泉	2
合計	138

(注) 複数の泉質がある温泉地は、主要な泉質のみを取り上げている。

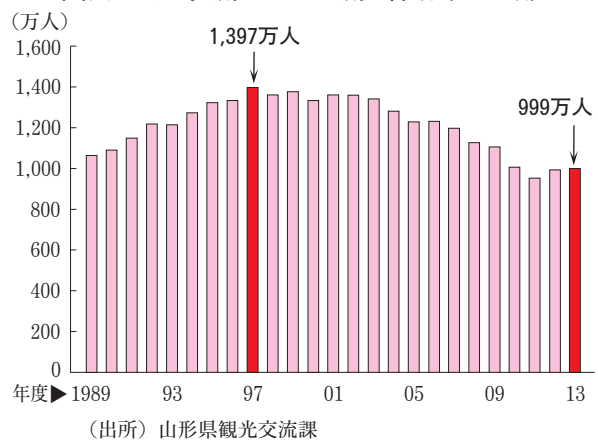
(出所) 山形県みどり自然課

2. 山形県内の温泉観光の現状

温泉観光地への観光者数(延べ数)の推移をみると、1997年度の1,397万人をピークに減少傾向をたどり、東日本大震災の影響が大きかった2011年度には953万人まで落ち込みました。しかしながら、その後は再び増加に転じ、2013年度は999万人となっています(図表2)。

また、2013年度の観光者数を県内客と県外客に分けてみると、県内客が664万人、県外客が335万人となっており、県内客が全体のおよそ3分の2を占めています。山形県内の温泉は県民にとって身近な観光地です。

図表2 温泉観光地への観光者数(延べ数)

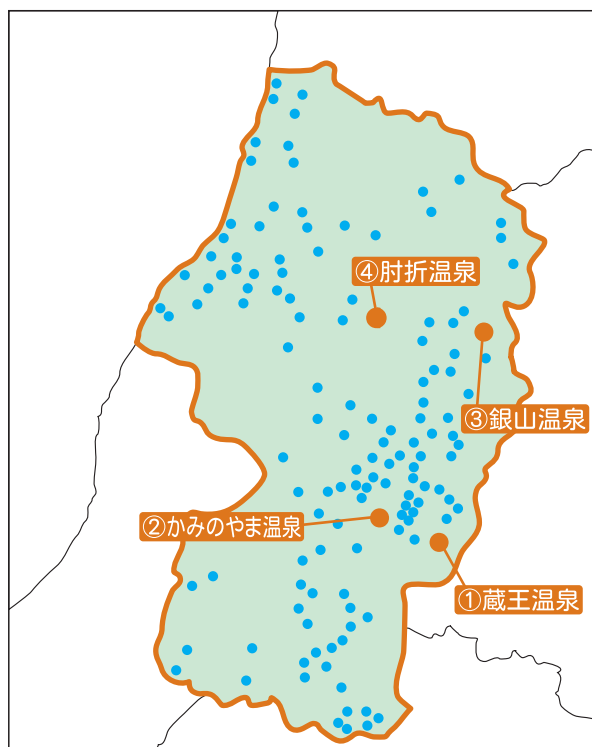


次に、2013年度における県内観光者数の観光地類型別の割合をみると、「温泉観光地」が24.9%、「名所・旧跡観光地」が21.2%、「道の駅」が12.7%、「観光道路等」が4.8%、「スキー場」が2.8%、「山岳観光地」が2.2%、「海水浴場」が1.7%、「その他観光地」が29.8%となっています。温泉観光地は、観光地類型のなかでも高い割合を占めており、山形県の観光の主力となっ

ています。それぞれ違った味わいのある山形の温泉地。来県の際には、ぜひ湯めぐりを楽しんでみてはいかがでしょうか。

3. 山形県内のおすすめ温泉地

図表3 温泉地分布図



(出所) 山形県みどり自然課

①蔵王温泉（山形市）

蔵王温泉は、山形市南東部にあり、蔵王連峰のふもと、標高約800mに位置する温泉地です。開湯は約1900年前、ヤマトタケルの遠征に付き従った吉備多賀由が発見したと伝えられています。「多賀由」が転じて「高湯（最上高湯）」と呼ばれるようになり、信夫高湯（福島県福島市、高湯温泉）、白布高湯（山形県米沢市、白布温泉）とともに奥州三高湯として親しまれてきました。泉質は、美肌の湯としても有名な強酸性の硫黄泉。源泉数は47と豊富で、山形県内では最大規模の温泉地です。

温泉街の周辺には蔵王温泉スキー場があり、冬場には全国からスキーヤーが集まります。また、春から夏にかけてはトレッキング、秋には紅葉狩りと、一年を通して楽しむことができま

す。最近では、昔ながらの町並みを活かして、案内人と一緒に夜の町を散歩する「湯煙り散策ツアー」といったイベントも開催されています。また、レジャーだけではなく、小さな餡入りの餅が熊笹の葉に3つ並んだ稲花餅や、ジンギスカン鍋などといった名物を味わうのもおすすめです。



蔵王温泉大露天風呂
(写真提供：蔵王温泉観光株)

②かみのやま温泉（^{かみのやま}上山市）

かみのやま温泉は、山形市に接する上山市にあり、開湯555年を超える歴史ある温泉地です。一羽の鶴が湯に脛をひたして傷を癒したという伝説から、別名「鶴脛の湯」とも呼ばれています。古くから市民はもちろん、出羽三山参詣者をはじめ多くの旅人に親しまれてきました。上山市内には、上山藩の城下町として栄えていた頃の面影を今も残す新湯、十日町、湯町と、眺望の良い高台に位置する高松、河崎、葉山と多くの温泉が点在しており、これらを総称して「かみのやま温泉」と呼んでいます。泉質は塩化物泉で、体がよく温まり、保湿効果も高い温泉といわれています。

上山市では、恵まれた地域資源を活かし、市民の健康増進と交流人口の拡大による地域活性化を目指して、2008年から上山型温泉クアオルト事業に着手しました。「クアオルト」とはドイツ語で「健康保養地」の意味です。運動療法の一つである気候性地形療法を用い科学的根拠に基づいた健康ウォーキングや、豊かな自然、

温泉、旬産旬消にこだわったヘルシー料理を組み合わせ、質の高い健康保養地を目指したまちづくりに取り組んでいます。



健康ウォーキング
(写真提供：上山市)

③ 银山温泉 (尾花沢市)

银山温泉は、宮城県との県境に近い、尾花沢市西部の山あいなたたずむ温泉地で、NHKドラマ「おしん」に登場したことで有名です。その名の通り、江戸時代には「延沢银山^{のべさわ}」として大量の銀を産出していました。温泉の湧出が発見されたのもこの頃といわれています。延沢银山はその後衰退しましたが、银山温泉は、仙境の湯治場として地元客を中心に愛されてきました。泉質は湯温が高めの塩化物泉で、体が良く温まり、冷え性に効くと評判です。

温泉街の中心を流れる銀山川を挟み、大正末期から昭和初期に建てられた木造多層建築の旅館が軒を連ねる風景は、银山温泉の最大の魅力



银山温泉の夕景
(写真提供：尾花沢市)

です。ガス灯に照らされた町並みは特に美しく、幻想的な雰囲気漂います。1986年には、「银山温泉家並保存条例」が制定され、町ぐるみで伝統を活かした温泉街の景観作りに取り組んでいます。また、2011年からは「大正ロマンプロジェクト」として、旅館や土産物店の従業員が大正時代風の衣装を着て接客するほか、観光客への衣装の貸出も行っており、着物やはかま姿で町歩きを楽しむことができます。

④ 肘折温泉 (大蔵村)

肘折温泉は、出羽三山のひとつである月山のふもと、大蔵村にある温泉地です。開湯は、今から約1200年前。源翁という僧侶が発見したと伝えられており、古くから湯治場として栄えてきました。現在も、銅山川沿いに多くの旅館が建ち並び、昔ながらの風情ある町並みが残っています。主要な泉質は、あたたまりの湯といわれる塩化物泉ですが、共同浴場「上の湯」は炭酸水素塩泉で、「骨折、疵^{きず}に肘折」と伝えられるように、傷や骨折によく効く温泉です。

肘折温泉の名物といえば、春から秋にかけて毎日開かれる朝市。朝市組合の女性たちが採れたての野菜や山菜、きのこなどを持ち寄り、通りに市を開きます。新鮮な食材はもちろんのこと、地元の人々との会話を楽しみに早朝から多くの宿泊客で賑わいます。また、2007年からは、「ひじおりの灯」として、温泉町の各所に東北芸術工科大学の学生が製作した灯籠が灯り、新たな夏の風物詩となっています。



朝市
(写真提供：肘折いでゆ館)

山形県庄内地域の魅力とは？

山形県では、2014年6月14日～9月13日の期間に、山形デスティネーションキャンペーン（以下、山形DC）が開催され、同年12月に行われた山形県知事の成果発表会見において、6～9月の本県への観光客数は、前年同期比2割増の1,164万人、経済波及効果（推計）は125億円と発表されました。県内4地域別に見ると、最も観光客数が伸びたのは庄内地域。そこで、本稿は山形県庄内地域において、豊富な観光資源を持つ鶴岡市の魅力やDCの取り組み、本県の観光振興などについてご紹介します。

※本稿は、「東北・北海道地区交流促進地銀連携事業」の一環として、**庄内銀行**から寄稿いただきました。

1. 庄内地域の概要

山形県の北西部に位置する庄内地域は、2市3町で構成される人口約30万人の地域です。東は月山を中心とする出羽丘陵によって県内陸部と隔てられ、西は日本海に面し、北は烏海山、南は朝日山地がそれぞれ秋田県、新潟県との県境を成しているため（図表1）、この地理的な理由もあり、庄内地域は独自の地域文化を形成しています。

図表1 庄内地域の立ち位置



(出所) 山形県HP

2. 食と観光の魅力が高い「鶴岡市」

庄内地域の南側に位置する鶴岡市は、2005年に6市町が合併して誕生し、東北地方1位の面

積を誇っています。庄内平野で収穫される庄内米、日本海から水揚げされる約130種類の新鮮な魚介、だだちゃ豆に代表される50種類以上の在来野菜など、山・海・川・平野といった豊かな自然環境によって、豊富な食材が地元農家の手によって育まれています。この豊富な食材に魅入られ、多くの料理人が集まり、さらに、精進料理などの地域固有の郷土食も脈々と受け継がれています。この豊かな食文化が評価され、鶴岡市は2014年12月に、ユネスコが創設する「創造都市ネットワーク食文化部門」に日本で初めて認定されました。現在、鶴岡市ではこの食文化を起点とし、農林水産業、食品加工業、観光業などの地域産業の活性化を進める「食文化都市」づくりの取り組みを進めています。今後はネットワーク加盟国と連携したイベント開催や、市内飲食店はもちろん、産業間の連携を密にし、事業展開していく予定となっています。

鶴岡市は食だけでなく、多くの観光資源にも恵まれています。崇峻天皇の子である蜂子皇子によって開山されたと伝えられる「月山」「羽黒山」「湯殿山」を総称する「出羽三山」は、山岳信仰の場として現在も県内外から多くの修験者・参拝者を集めています。その中でも、「羽黒山」の「五重塔」と「杉並木」はそれぞれ、国宝と国の特別天然記念物に指定され、羽黒手向地区には現在も宿坊が連なり、我が国の山伏修行のメッカとなっています。

また、鶴岡市には6つの海水浴場があり、「湯野浜海水浴場」は県内最大規模の海水浴場で、釣りやマリンスポーツ、キャンプなどのア

ウトドアを楽しめます。

さらに、2014年6月には、「鶴岡市立加茂水族館」がクラゲドリーム館としてリニューアルオープンし、クラゲ展示では世界一の種類数を誇り、多くの観光客が訪れています。

山形県は全市町村で温泉が湧く全国唯一の温泉地ですが、開湯1300年余の歴史を誇る鶴岡市の「湯田川温泉」「あつみ温泉」と開湯約1000年の「湯野浜温泉」は庄内3大名湯に数えられます。日本海の夕日を眺めながらの入浴、静かな佇まいの山間の温泉郷、温海川が温泉街を流れる桜の名所など、それぞれのロケーションで違った趣の温泉を楽しむことができます。

市内中心部には、江戸時代に庄内藩の城下町として栄えた風情が色濃く残っており、豪商の往時の面影を今に伝える国指定の重要文化財「丙申堂」、徳川四天王の筆頭であった酒井家の御用屋敷を使用し、国宝や重要文化財のほか、庄内地方の貴重な民俗資料を収蔵する「致道博物館」、その敷地には、国指定の名勝「酒井氏庭園」をはじめ、国指定の重要文化財「旧西田川郡役所」「多層民家旧渋谷家住宅」「旧鶴岡警察署庁舎」などが移築復元されています。また、鶴岡市出身の小説家藤沢周平の作品を収蔵し公開している「鶴岡市立藤沢周平記念館」もあり、歴史・文化施設が集積するスポットとなっています。

3. 庄内地域のポテンシャルと鶴岡市の取り組み

山形県の山形DC成果報告によると、2014年6～9月の4カ月間における、主要観光地87カ所を対象とした観光客数は、1,164万人となりました。県内4地域(庄内、最上、村山、置賜)の中でも、庄内地域の観光客数は403万人(前年同期比26.3%増)で最も高い増加率となり、観光資源が豊富な鶴岡市は庄内地域の観光客数の約5割を占めています。庄内地域(鶴岡市)の増加率が最も高かった理由として、「国宝羽黒山五重塔ライトアップ」「鶴岡市立加茂水族館リニューアルオープン」など、注目度の高い観光施設の磨き上げにより観光誘客が図られた

ことがあげられます。

当行が携わった観光振興の取り組みとして、「るるぶ特別編集鶴岡」の発行があります。当誌は鶴岡市の多くの食・観光に関わるスポットを県内外の方々に幅広くPRすることを目的に、(株)JTB東北、鶴岡市と連携して5万部制作されました。当行の営業店をはじめ、県内外の観光・交通施設に設置し、観光誘客のツールとして広く活用されています。



るるぶ特別編集鶴岡

4. 今後の本県の観光振興について

山形県でのDC開催は、2004年以来10年ぶり6回目となり、山形DC推進協議会は、2014年度の本県への観光客数目標を過去最大の4,500万人に設定しています。本年度は、山形DC以外にも、東北六魂祭、全国育樹祭など、本県の観光資源が全国的に注目された年であり、今後発表される目標人数の達成に期待が高まっています。

山形DCは観光業だけにとどまらず、「全県民・全産業参加」をテーマに、県民自ら考え実践する『「山形日和」おもてなしプラン』に個人や企業など560団体、10万6千人を超える県民が参加し、それぞれの立場や考えでおもてなしの取り組みを実施しました。

今後は、本年度の経験を生かし、観光資源の更なる磨き上げを行い、長期広域周遊を目指した取り組みが必要となります。その中でも春夏秋冬の多種多様な観光資源が存在する庄内地域、そして鶴岡市が担う役割を認識し、地域全体として観光振興に取り組んでいきたいと思ひます。

荘内銀行の職員が紹介する「地元のイチ押しスポット」

【推薦者】 酒田中央支店 矢部 小百合 さん

【内 容】 「山王商店街」

鶴岡市を訪れた際に、ぜひ一度お越しいただきたい場所は、山王商店街です。山王商店街はJR鶴岡駅から徒歩で南へ10分程度の場所にあり、2010年度には中小企業庁の「新・がんばる商店街77選」に、2013年度には国土交通省の「手づくり郷土賞」に選出された元気のある商店街です。山王商店街の魅力は、歩道の広さ（みち広場と言われています）を活かしたイベントの数々です。代表的なものとして、20年以上も続く、毎年5～10月の第3土曜日に開催される「山王ナイトバザール」があります。山王ナイトバザールは、地元商店街のお店が割安で商品を販売するのはもちろん、百円玉掴み取りが当たるスタンプリーやフリーマーケットなど、様々な企画が行われ、毎回多くの方がご来場されます。その他にも、毎週土曜日の夜のみ開店する「さんのう夢屋台」など、鶴岡の食文化を味わえるイベントも多く開催していますので、山王商店街のFacebookやホームページで情報をご確認いただき、ぜひお立ち寄りください。



山王ナイトバザールの様子

【推薦者】 地域開発部ふるさと振興室 進藤 準一郎 さん

【内 容】 「スタジオセディック 庄内オープンセット」「鶴岡まちなかキネマ」

鶴岡市を訪れた際に、ぜひ一度お越しいただきたい場所は、「スタジオセディック 庄内オープンセット」と「鶴岡まちなかキネマ」です。スタジオセディック 庄内オープンセットは、月山山麓に位置する広大な映画撮影セットで、漁村・農村・宿場町などの様々なエリアが点在し、映画の舞台を体験・見学することができます。「蝉しぐれ」や「武士の一分」などの藤沢周平作品はもちろん、アカデミー賞を受賞した「おくりびと」など、多くの作品の映画撮影が行われています。農村・漁村エリアには、2013年に移築復元された「おしんの生家」があります。

鶴岡まちなかキネマは、明治時代以降盛んだった絹織物工場を活用・改修して、開館された映画館です。映画上映以外にも、各イベント会場やコンサート、鑑賞会など、幅広く利用されています。



スタジオセディック 庄内オープンセット

地域ごとに異なる特徴で魅せる福島県

福島県は関東地方のすぐ北に位置し、東北の中では北海道から最も離れた場所にあります。しかし、福島県が会津地方を中心に戊辰戦争の戦場となった幕末、「五稜郭」が戊辰戦争最後の戦いである箱館戦争の舞台となるなど、歴史的な深いつながりを感じます。そして2016年3月には北海道新幹線が開業し、新函館北斗まで結ばれることにより、更なる文化交流が図られることが期待されます。本稿では、地域ごとに異なる特徴を持つ福島県の魅力についてご紹介します。

※本稿は、「東北・北海道地区交流促進地銀連携事業」の一環として、とうほう地域総合研究所（東邦銀行）から寄稿いただきました。

1. 自然に恵まれた福島県

福島県は全国で3番目の広い県土を雄大な自然に恵まれ、太平洋に面する浜通りから雪深い会津まで気候風土の異なる地域で構成されていることが特徴です。奥羽山脈と阿武隈高地が南北に通る地形から、「浜通り」「中通り」「会津」の3つの地方に大きく分かれます（図表1）。

福島県の自然の豊かさを表す「福島にはほんとの空がある」という言葉があります。この「ほんとの空」は、詩人高村光太郎が彼の妻・智恵子について綴った詩集として有名な「智恵子抄」に出てくる言葉です。智恵子が故郷の安達太良山の上に見える青い空を懐かしんで言った言葉ですが、現代の我々にもその感覚は引き継がれています。ちなみに、智恵子の出身地である二本松市には「智恵子の森」という住所も存在します。

北海道とゆかりがある本県出身者としては、元会津藩士で戊辰戦争後に北海道開拓を志し、後に丹羽村（現在の久遠郡せたな町の一部）を開村した丹羽五郎、飯盛山で自刃した白虎隊士の中でただ一人生き残り、道内の電気通信の発展に尽力した飯沼貞吉など、多くの人物の名が挙げられます。

産業については、福島県は米や果物など、一般には農業のイメージが強いのではないかと思います。しかし、関東圏に接する地理的条件な

どにより工場立地が進められたことから、製造業が発展してきた歴史があり、製造品出荷額等では東北で最も多い県となっています。

図表1 福島県の地域区分図



（出所）福島県HP

2. それぞれの特色を持つ3つの地方

（1）広大な太平洋を望む「浜通り」

浜通り地方はその名の通り、太平洋に面したエリアで、現在は一部東日本大震災後の原発事故により立ち入りができない場所もありますが、県内では最も穏やかな気候の地域です。相双地域では一千有余年の歴史がある神事「相馬野馬追」（南相馬市など）、いわき地域では映画で話題となったフラガールで知られる「スパリゾートハワイアンズ」（いわき市）などが有名です。また、越後山脈、奥羽山脈、阿武隈高地によって雪雲が遮られるため、冬でも降雪がほとんどありません。いわき市小名浜は年間積雪量が1.8cm（2002～2011年平均値）と、東北地方の中でも極端に積雪の少ない地域となっています。

(2) 美しい花木と温泉に囲まれる「中通り」

中通り地方は県の中央部に位置するエリアで、県庁所在地の福島市と県内最大都市の郡山市などがあります。特に、福島市周辺の県北地域は、もも、なし、りんごなどの果物栽培が盛んなことで知られます。写真家故秋山庄太郎氏が「福島に桃源郷あり」と称した「花見山」(福島市)は、春には多くの観光客で賑わいます。

県中地域には、樹齢1000年を超えるベニシダレザクラで日本三大桜のひとつ「三春滝桜」(田村郡三春町)があり、花の見どころもたくさんあります。

また、福島市には奥州三名湯の一つ「飯坂温泉」や秘湯として有名な「高湯温泉」など多彩な温泉があるほか、白河市には1801年に白河藩主松平定信が造成した、日本最古の公園と言われる「南湖公園」があります。

(3) 風光明媚な景観と歴史に触れる「会津」

会津地方は県の西部エリアで、北海道の「サロマ湖」に次いで全国で4番目に広い「猪苗代湖」や「会津富士」とも呼ばれる「磐梯山」^{ぼんだいさん}、水芭蕉をはじめとする花々に魅了される「尾瀬湿原」などの豊かな自然が広がっています。

会津若松市は「鶴ヶ城」や白虎隊自刃の地として知られる「飯盛山」など、幕末の雰囲気に至る所に残しているほか、南会津では宿場町の風景そのままの「大内宿」(南会津郡下郷町)があります。また、2013年のNHK大河ドラマ「八重の桜」の主人公「新島八重」や、世界的に有名な医学者「野口英世」など多くの偉人を輩出しています。



会津若松市のシンボル「鶴ヶ城」

3. 福島県を楽しむ

各地の観光スポットを巡る以外にも、福島県を楽しんでもらうポイントをいくつか挙げてみました。

(1) ゴルフとスキー両方OK!

前述の通り、同じ県内でも3つの地方で気候条件が大きく異なり、特に冬期間においては、東側の温暖な「浜通り」と西側の雪の多い「会津」では別世界となります。従って、冬でも体を動かしたい人にとっては「いわき」でゴルフをしてから、次の日に「会津」でスキーを楽しむ、夜は温泉につかり体を休めることも可能です。

(2) 小原庄助さん気分を味わう!

2013(平成25)酒造年度の全国新酒鑑評会(2014年5月発表)で、福島県の17銘柄が金賞を受賞しました。都道府県別では2年連続の全国1位です。きれいな水と米作りに適した気候風土に恵まれる特徴が表れた結果ですが、このうち会津地方の酒が11銘柄となっています。

会津民謡「会津磐梯山」では、「小原庄助さん なんて身上つぶした 朝寝 朝酒 朝湯が大好きで それで身上つぶした ああもつともだ もつともだ」と歌われています。そこまで飲んでくださいとは言いませんが、旨い酒が揃っ

ていますので、色々な銘柄を飲み比べてみるのも一興だと思います。

(3)「松前漬け」と「いかにんじん」

北海道の郷土料理に「松前漬け」がありますが、福島県の県北地域には「いかにんじん」という似た郷土料理があります。この「いかにんじん」は、するめとにんじんを細切りにし、醤油、日本酒、みりんなどで味付けしたものです。伝統的にはするめとにんじのみですが、近年では「松前漬け」のように昆布や数の子を加える場合もあります。かつて松前藩士が「いかにんじん」を持ち帰り、昆布などを加え「松前漬け」を作ったという説もあります。あくまで一説ですが、食においても北海道とのつながりが感じられ、できることなら当時にタイムスリップして確かめてみたいものです。福島で「いかにんじん」を食してみるのもいかがでしょうか。



いかにんじん
(出所) 福島県

(4) 朝からラーメン！？🍜

福島県の「喜多方ラーメン」は、「札幌ラーメン」「博多ラーメン」とともに日本三大ラーメンの一つに数えられていることから、北海道も福島県もラーメンで知られる土地柄と言えます。喜多方市は蔵の数が4,000を超える「蔵のまち」ですが、近年は「喜多方ラーメン」で知

られるようになりました。人口約5万人に対しラーメン店が約120軒もあり、人口当たりの店舗数は全国一と言われています。地元では朝からラーメンを食べる習慣があり、いわゆる「朝ラー（朝ラーメン）」を楽しむこともできます。

「札幌ラーメン」は我々にも馴染みですが、北海道で食べると格別美味しく感じます。同じように喜多方の街並みを観て、食べていただくことをお勧めします。

4. JRデスティネーションキャンペーンへの期待

2015年4月1日～6月30日に、「ふくしまデスティネーションキャンペーン（DC）」が開催されます。2014年4～6月にはプレDCが開催され、SLの運行などで盛り上がりを見せました。今年のDCのメインテーマは「福が満開、福のしま」です。桜をはじめ多くの花が咲き誇る季節に、スタンプラリーや宝探しなど、県内各地を巡り自然に親しむ周遊企画が用意されています。

近年開催されているDCをみると、100億円以上の経済波及効果も試算されており、震災後の観光復興への取り組みを後押しすることが期待されています。

5. 互いを再発見する

北海道新幹線が開業すれば、新函館北斗から福島まで約3時間で移動が可能となります。

これまでよりずっと身近になることで、北海道・東北の様々な交流が盛んとなり、互いの魅力を再発見できることを大いに期待しています。

図表2 県内の主要交通ネットワーク図と主な観光地



(出所) 福島県HP



北海道銀行

調査ニュース (2015・3別冊号) NO.365

企画・発行 株式会社 北海道銀行 (ホームページ<http://www.hokkaidobank.co.jp>)

編集 株式会社 道銀地域総合研究所 経済調査部

(照会先) 〒060-8676 札幌市中央区大通西4丁目1番地 道銀別館ビル

TEL (011) 233-3561 FAX (011) 207-5220

〈本誌の無断転用、転載を禁じます〉